安土城考古博物館展示見直しについて

教育・文化スポーツ常任委員会資料8-1
令和3年(2021年)3月10日
文化スポーツ部文化財保護課

第1章 リニューアルの背景

1-1博物館の理念・1-2現況・1-3博物館の強み・1-4利用者のニーズ・1-5課題

館の歴史と設立主旨

昭和45年 近江風土記の丘資料館として開館
平成4年 滋賀県立安土城考古博物館として開館
位置づけ:風土記の丘を構成する4つの史跡をテーマに活動。城と考古のテーマ博物館

入館者の推移

平成6年(8.5万人)をピーク 近年は4万人前後
近年は安土城跡より2.4万～3.2万、信長の館より2.2万～2.7万人入館者が少ない。

館の強み

豊富な収蔵品:戦国・織豊期のコレクション、摠見寺の寄託品
立 地:戦国末・織豊期の近江の拠点城郭が近所に存在
豊富な展覧会実績:城と考古をテーマに固定ファン有り

社会情勢の変化

人口減少 高齢化 訪日外国人の増加 コロナの流行
文化財保護法の改正・文化財保存活用大綱の策定
保護と活用のバランス 「保存なくして活用なし」

利用者のニーズ

来館者の中核:県外 男性 中高年 リピート率3割
9割の利用者が展示内容に満足 アンケートでは展示コンセプト、展示内容や展示手法の問題点を指摘

課 題

「幻の安土城」復元プロジェクトの中核施設としての機能強化が必要
①利用者ニーズとの乖離:展示コンセプト・テーマがそぐわない
②設備・展示物が老朽化:最新の調査研究成果が反映されていない。手法が陳腐。
③公開承認施設の機能維持:空間環境、設備・展示ケース
④利用者サービスの充実:多言語対応、オンラインコンテンツの充実
⑤集客性の向上:安土城との連携強化

見直しについての有識者の意見

・集客には思い切った方向転換が必要。
・安土城の最新の調査研究成果を反映した展示をすべき。
・安土城の展示は、他ではできない、滋賀県でしかできないこと。役割を明確に。
・戦国織豊期の館蔵コレクションをもっと活用した展示を。
・ターゲットの明確化。中高年男性に加え、家族づれ子どもを取り込むことが必要。
・ヴァーチャルなど新しい展示手法を取り入れ、子どもたちとその家族を取り込むこと。
・学校の活動へむけ周辺施設や史跡との連携し長時間滞在が可能、体験学習ができる場に。

第2章 リニューアルの基本方針

2-1基本的な考え方・2-2基本方針

	現 行		基本計画案
基本コンセプト	風土記の丘の遺跡をガイダンス		安土城・信長・戦国に特化
エントランスホール	速報展示・その他、情報展示	→	近江風土記の丘のガイダンス展示
第一展示室	史跡大中の湖南遺跡(弥生) 史跡瓢箪山古墳(古墳)	→	安土城・信長・戦国
第二展示室	史跡観音寺城(中世) 特別史跡安土城跡(戦国)	→	安土城・信長・戦国

常設展をリニューアル

特化を選択した理由

施設規模の制約が大きいことから、課題を解決するには、テーマを絞り、ここ安土でしかできない、ここならではの特性ある博物館・展示とせざるを得ないと判断。

リニューアルの効果・メリット

・プロジェクトの中核施設としての機能強化が図れる
・利用者ニーズとの乖離が解消でき、集客向上が見込める
・安土城の最新の調査研究成果を反映した展示が提供できる
・デジタル等最新技術を使用した展示としてリスタートできる

デメリットへの対応

・近江風土記の丘ガイダンス機能が低下。
→エントランスホールを活用しガイダンス機能を強化

安土城と信長・戦国をテーマとする唯一無二の博物館として、その情報・魅力を発信する拠点へ

ターゲット

2-3 リニューアル整備の概要

基本コンセプトを「安土城・信長、戦国」に特化することよる、館全体の展示活動の方向性と整備範囲の考え方の整理

現行（施設）	現行（展示内容）	基本計画（施設）	基本計画（展示内容）
エントランスホール	速報展示・その他、情報展示	エントランスホール	風土記の丘のガイダンス展示の新設【史跡大中の湖南遺跡（弥生）・史跡安土瓢箪山古墳（古墳）】速報展示
第一展示室	史跡大中の湖南遺跡（弥生）史跡安土瓢箪山古墳（古墳）	第一展示室（展示仕様により一体感を持たせる）	リニューアル：安土城・信長・戦国
望楼ホール		望楼ホール	安土城天主復元イメージ展示の新設
第二展示室	史跡観音寺城跡 特別史跡安土城跡	第二展示室	リニューアル：安土城・信長・戦国
企画展示室	考古全般 安土城・信長・戦国	企画展示室	考古全般 安土城・信長・戦国
回廊展示	水資源開発関連（現在は発掘調査全般）の整理作業見学	回廊展示	発掘調査関連の普及啓発として強化

※現状の財政状況を勘案して、時期等については調整する。

第3章 展示計画

3-1基本方針

- わかりやすく、楽しく伝える展示
- 現地と一体性があり、疑似体験となりうる展示
- 県民との連携および来館者の参画を促す展示
- 何度来ても発見のある展示

安土城・信長・戦国の世界を体感できる展示

3-2・3-3展示構成

コンセプト	デジタル技術や映像を駆使し、専門的な内容をわかりやすく紹介するとともに、ファンも深く鑑賞できる展示
第一展示室	シアター等、デジタル技術を駆使した空間でガイダンス 空間全体を使った映像演出で戦国時代にタイムスリップ
第二展示室	資料を活用した鑑賞空間　テーマ：安土城・信長・戦国 多様な実物資料展示を中心とした展示

展示構成の決定理由

コアターゲットである子ども・ファミリー層をはじめとし、より多くの人にとって、受け入れやすく、楽しみながら学べる博物館を目指す。

新しい展示構成の効果・メリット

- 閉じられた没空間で、最新技術を使った映像により、安土城・信長・戦国の世界のすべてを体感でき、子どもやファミリーなど歴史に興味がない人たちへも夢とロマンを与えることができる。
- 映像コンテンツ以外に、安土城の最新の調査研究成果の紹介や、学芸員によるガイダンス・セミナーなど、より多角的に活用できるシステムを構築することで、何度来ても楽しめるシアター展示とすることができる。
- 最新の調査研究成果を反映した、実物資料中心の展示を第二展示室で展開するとともに、企画展示室と合わせてフレキシブルに展示室を活用することで、自由度が高くより豊かな展示が可能になる。
- 映像で得たイメージ世界と実物資料の持つ歴史的価値を結びつけることにより、従来からのメイン利用者（40～60代男性）や、歴史ファンも満足できる内容とすることができる。

第4章 事業・運営計画

リニューアルの考え方に対応した事業・運営

- ターゲットに即した事業運営の実施
- 集客や満足度を高めるサービス事業の強化
- 近江風土記の丘のガイダンス機能強化
- コンセプトに見合う基礎事業（調査研究・収集保管）の継続・強化と組織・人員体制の検討

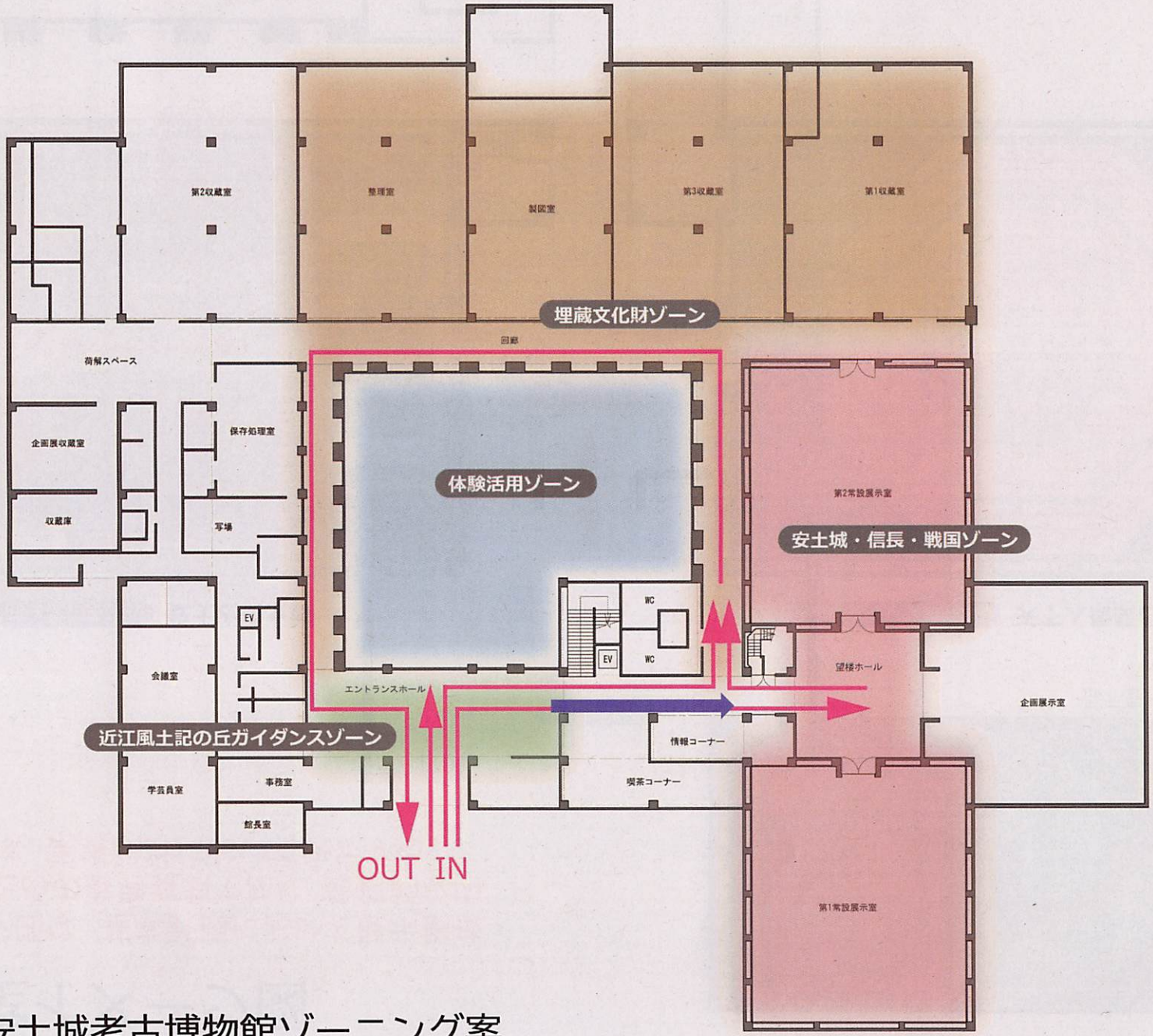
運営目標：安土城跡や信長の館との相乗効果により、年間10万人

第5章 事業推進計画

展示リニューアルのスケジュール

プロジェクトの中核施設としての機能を維持し続けるため、休館せずに段階的にリニューアルを実施

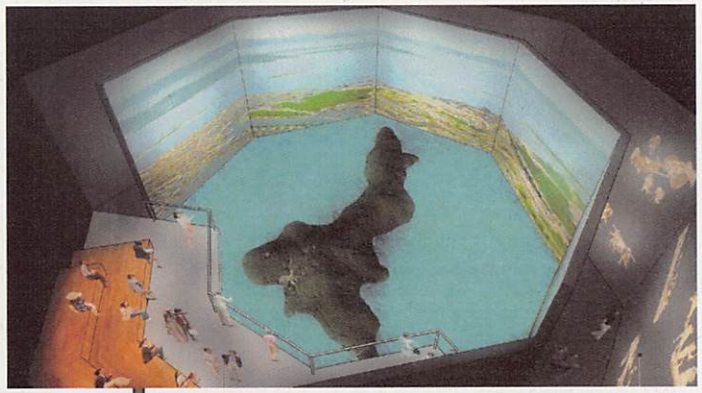
- 第一展示室：令和7年の関西万博、国スポ・障スポまでに実施。令和8年の安土築城450年祭で主要会場として活用。
- 第二展示室：令和8年以降に早期に実施。



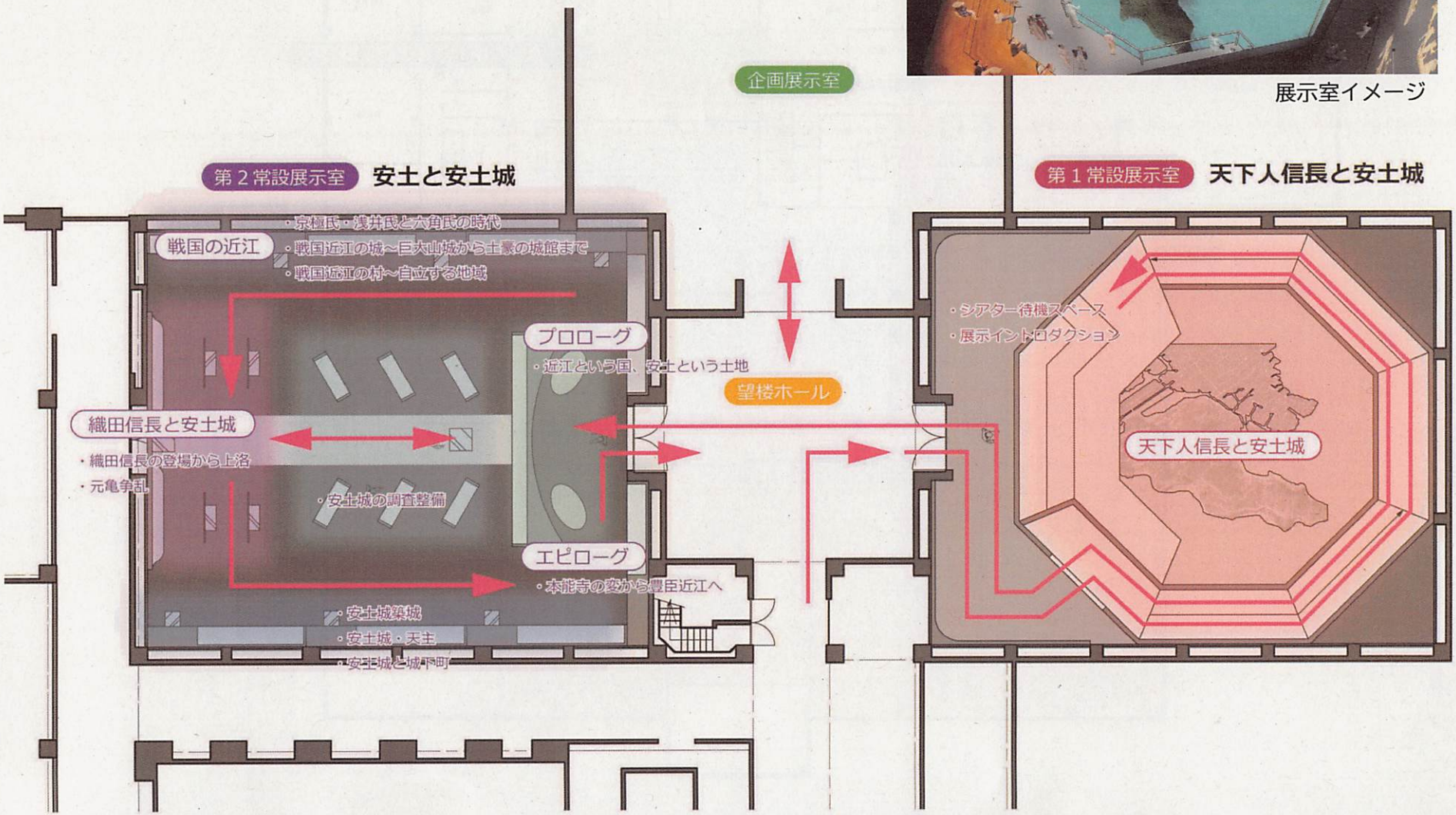
滋賀県立安土城考古博物館ゾーニング案

展示室イメージ図

※本イメージ図は、基本計画において展示構成を検討するための参考資料であり、最終的な内容については、実施設計において決定する。



展示室イメージ



教育・文化スポーツ常任委員会資料 8-2
令和３年（２０２１年）３月１０日
文化スポーツ部文化財保護課

安土城考古博物館展示基本計画（案）

令和３年３月

滋賀県

目　次

第１章　展示リニューアルの背景

1-1. 博物館の理念……01
1-2. 現況……04
1-3. 博物館の強み……14
1-4. 利用者のニーズ……17
1-5. 課題……22

第２章　展示リニューアルの基本方針

2-1. 基本的な考え方……25
2-2. 基本方針……27
2-3. 展示リニューアル整備の概要……33

第３章　展示計画

3-1. 基本方針……37
3-2. 展示構成……39
3-3. 平面計画・空間イメージ……41
3-4. 望楼ホール……45
3-5. エントランスホール……46
3-6. 工事工程イメージ……47

第４章　事業・運営計画

4-1. 事業運営における現状と課題……48
4-2. 課題解決へ向けた方策……49

第５章　事業推進計画

5-1. 建築設備改修の基本方針……53
5-2. 事業工程および事業概算……57

資料編……

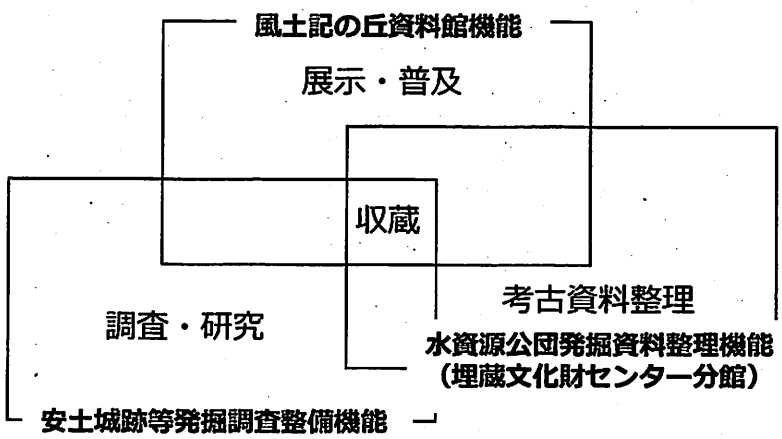
第１章　展示リニューアルの背景

1-1. 博物館の理念

1. 滋賀県立近江風土記資料館の位置づけ

- 滋賀県立安土城考古博物館（以下、「本館」と表記）の前身は、昭和 45 年に開設された「近江風土記の丘資料館」に遡ります。「風土記の丘」とは、地域に存在する史跡を広域に保存し活用することを目的に、文化庁が昭和 41 年に設置した構想（「風土記の丘設置構想」）で、滋賀県では昭和 41 年「西都原風土記の丘」、昭和 42 年の「紀伊の国風土記の丘」に引き続き、全国で 3 番目に設置されました。資料館はその中核施設として設置されたものです。
- その後、資料館の再整備・活性化を目的として、昭和 63 年に近江風土記の丘整備基本計画を策定し、(1) 良好な自然環境の活用、(2) 既存施設の活用、(3) 複合化による活性化、(4) 風土記の丘ネットワークのセンターとすることを基本方針として示し、新しい施設として生まれ変わらせることとしました。
- 特に (3) 複合化による活性化については、当時課題であった水資源公団（当時）関連発掘資料整理場所と新しく始めることとなっていた安土城跡の調査・整備事業の基地の必要性から資料館に 3 つの機能を配置し、それらを有機的に結び付け、複合化することで、近江風土記の丘ひいては公園全体の活性化を図るものとしています。

図表 1：近江風土記の丘資料館の施設機能
（『近江風土記の丘整備基本計画報告書』より作成）



2. 本館の理念・目的・使命

- これまでの流れを汲み、平成４年に資料館は館名を「滋賀県立安土城考古博物館」に変更し開館、翌年には入館者が延べ 10 万人に到達するなど大きな話題を呼びました。平成８年には入館者が延べ 30 万人を突破し、同年公開承認施設の承認を受けています。

- 設置時においては、前身の資料館を継承する形で近江風土記の丘の中核施設に位置づけられており、特別史跡安土城跡をはじめ、史跡大中の湖南遺跡・瓢箪山古墳・観音寺城跡のガイダンス施設として、その時代の歴史や文化を紹介することをねらいとしてきました。また、常設展示を発展させるため、城郭と考古を主なテーマとした特別展・企画展の開催や講座・講演会等の普及啓発事業の展開、併設された埋蔵文化財センター機能により、考古資料の調査・整理・復元の公開を行い、地域文化の拠点施設として活動してきました。

- 本館の設置目的・事業の基本的な考え方は、以下のとおりです。

図表２：設置目的・事業の基本的な考え方

■設置目的

「郷土の文化財を保存し、且つその活用を図り、
県民の文化の向上に資すること」

■事業の基本的な考え方

1.「近江風土記の丘」を構成する史跡を事業の中核とする、テーマ館として活動。

2. 大中の湖南遺跡・瓢箪山古墳・観音寺城跡・安土城跡を軸に、関連する県内の資料も展示し、「近江風土記の丘」に関する歴史や文化に対する理解を深めるのに役立つ地域博物館を目指している。

3.「近江風土記の丘」の歴史的風土の所産である歴史・考古・民俗資料を、調査・収集・保管・研究し、展示や体験学習により教育・普及活動に役立てている。

4.「近江風土記の丘」の史跡群や歴史的風土を通して地域の発達の姿を正しく理解する、生涯学習の場とする。

5. 隣接する安土城郭調査研究所と、館内で埋蔵文化財の整理調査をすすめる、滋賀県文化財保護協会調査整理課と連携を図っている。

6. 埋蔵文化財センター機能部分では、考古資料の調査・整理・保存科学に関する施設および設備を整備し、博物館では歴史資料を保存・管理するとともに、その活用を図っている。

3. これまでの活動とリニューアルの経緯

- 本館は現在に至るまで、近江風土記の丘内の史跡を中心に、地域の歴史や文化に対する理解を深めてもらう拠点として、多くの県民に利用されてきました。安土城跡をはじめとする多数の史跡の発掘・調査・研究やそれらの成果を基にした特別展・企画展の開催、県民へ向けた普及啓発活動など豊富な実績を重ね、入館者数は延べ 130 万人を突破、地域の歴史学習・生涯学習の場ともなっています。

- しかし、開館から 25 年以上が経過し、常設展示の基本部分の更新ができていないために平成元年から 20 年かけて実施してきた安土城跡の調査成果が十分に反映できていないこと、利用者と展示コンセプト、期待される質・量のギャップなどから近年入館者数の落ち込みが認められること、公開承認施設としての機能維持のための対策を講じる必要が生じてきたことなど、展示内容や展示環境に様々な課題が生じ始めました。

- また、これらとは別に安土城築城 450 年を令和 8 年度に控え、機運醸成を図るため令和元年度から「幻の安土城」復元プロジェクトを立ち上げ、安土城跡への興味・関心および天主復元に対する機運を高めるための取組も行っており、安土城跡の情報を発信する中枢拠点としての機能をさらに強化する必要が生じています。

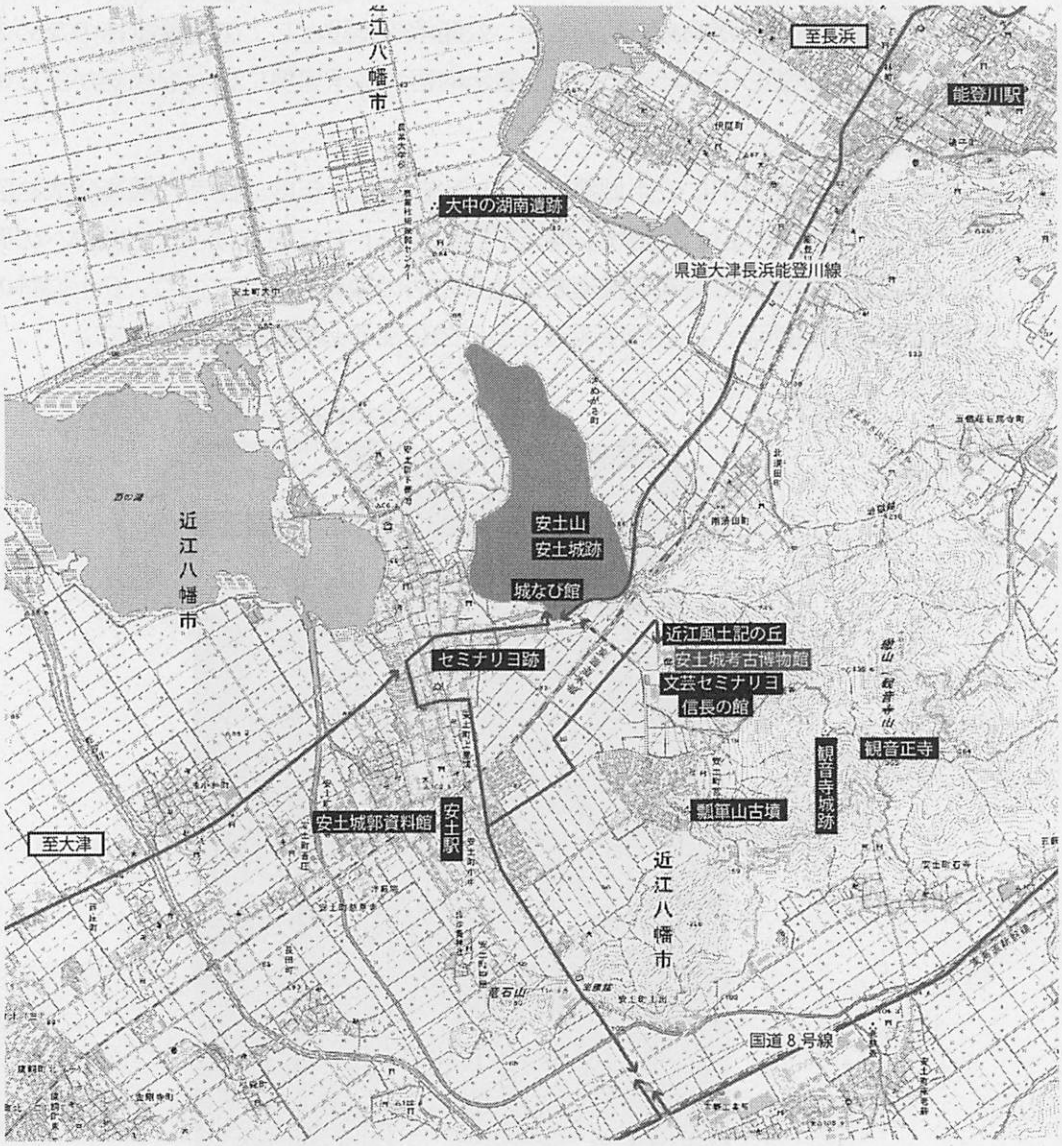
滋賀県観光キャンペーン
「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」

1-2. 現況

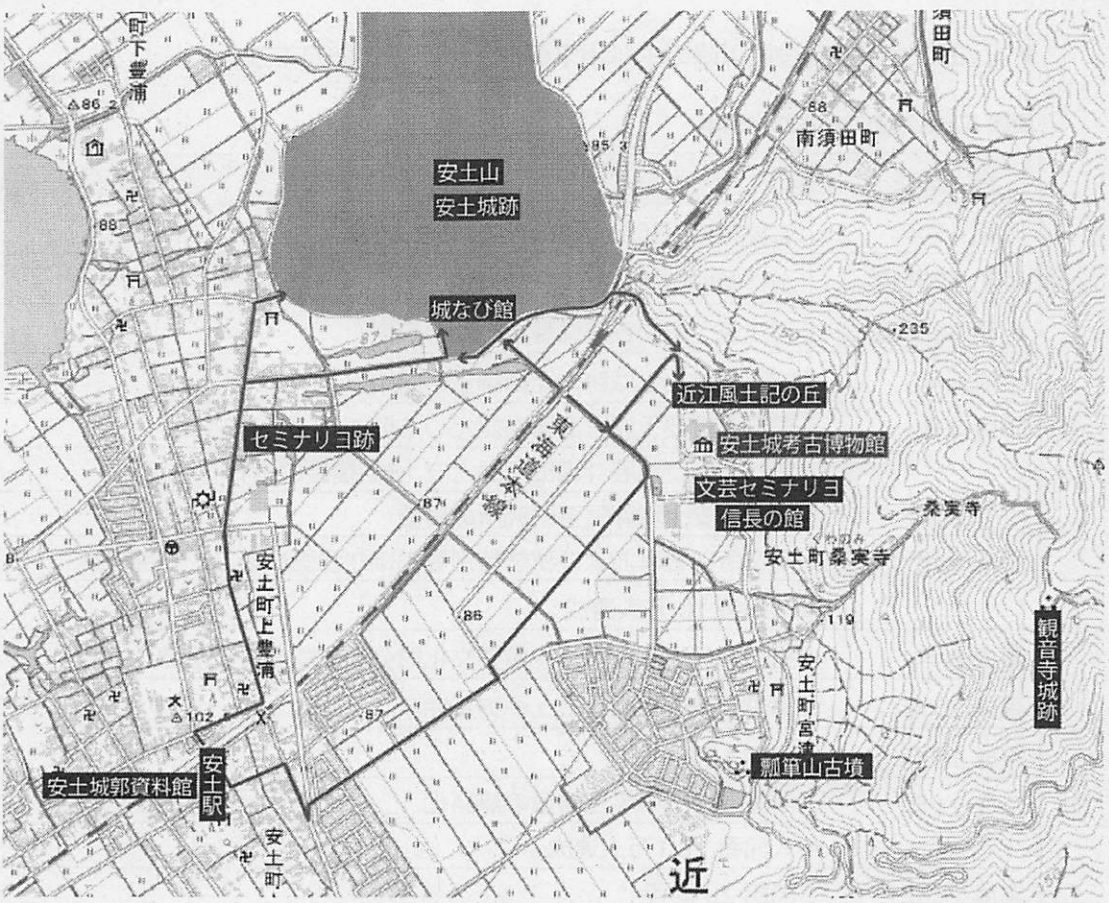
1. 所在・アクセス

- 本館は、安土城跡・大中の湖南遺跡・瓢箪山古墳・観音寺城跡等で構成される近江風土記の丘内に位置し、JR 琵琶湖線安土駅より徒歩 25 分の距離にあります。
- 利用者のアクセスは、郊外にある本館の特性からも自家用車での来館・周遊が一般的となっています。かつては鉄道での集客向上を目的として駅からのバス運行も行っていましたが、利用者の増加には至らず廃止となっています。

図表 3：本館へのアクセス図（車）



図表４：本館へのアクセス図（徒歩）



2. 沿革

● 近江風土記の丘設置以降の主な出来事は、以下のとおりです。

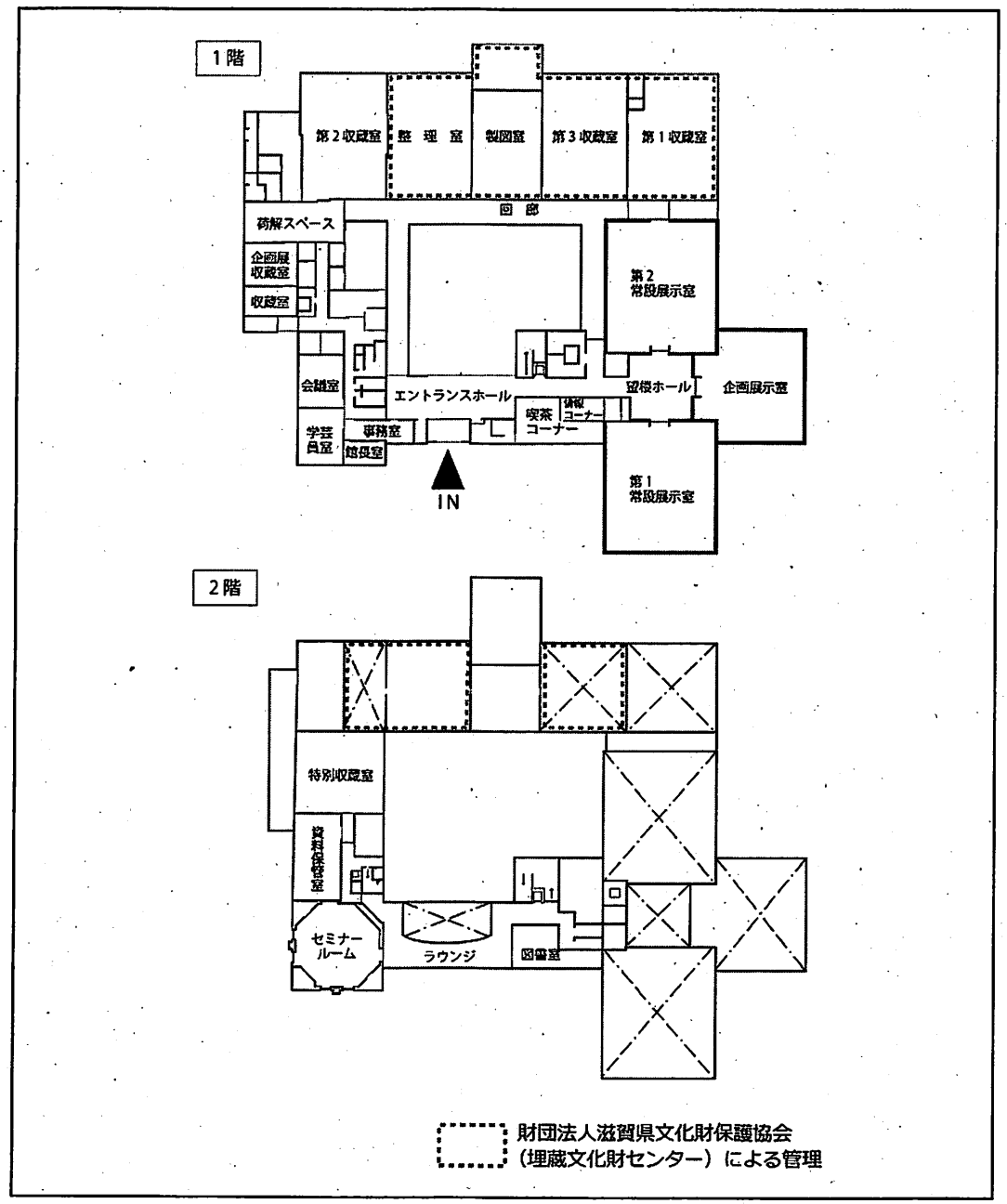
図表 5：これまでの主な出来事

年（年度）	主な出来事
昭和 45 年	滋賀県立近江風土記の丘資料館の設置
昭和 57 年度	滋賀県地域博物館構想の策定
昭和 63 年度	近江風土記の丘整備基本計画の策定
平成元年	特別史跡安土城跡の発掘調査の開始
平成 4 年	滋賀県立安土城考古博物館として開館
	開館記念特別展「織田信長と安土城-信長の世界-」を開催
	滋賀県安土城郭調査研究所の設置
平成 5 年	年度毎に春季および秋季特別展のほか企画展を 2～3 回開催
	入館者 10 万人達成
平成 8 年	文化財保護法に基づく重要文化財公開承認施設に承認
平成 13 年	常設展示の一部リニューアル完了
平成 14 年	開館 10 周年
平成 21 年	常設展の小中学生料金の無料化
	入館者 100 万人達成
平成 24 年	開館 20 周年
	開館 20 周年記念湖上フォーラムの開催
平成 27 年	重要文化財旧宮地家住宅の保存修理が完了
平成 28 年	入館者 130 万人達成
平成 29 年	開館 25 周年

3. 施設概要

- 博物館施設は鉄筋コンクリート造の２層構造で、延床面積 5,846 ㎡、敷地面積 67,836 ㎡の規模を誇ります。安土城天主５階部分の八角形と天主の高さ 31 メートルをモデルとした望楼を所持し、その下の望楼ホールに面して２つの常設展示室と企画展示室を配しています。
- また、埋蔵文化財センター機能を併設した部分では、出土遺物の整理作業を窓越しに見学できる回廊展示、エントランスホールにおいては調査成果等の速報展示を行うロビー展示や喫茶コーナー、２階には図書室やセミナールーム等を設けています。

図表６：施設平面図



- 敷地内には、旧宮地家住宅（重要文化財）や旧安土巡査駐在所（県指定文化財）、旧柳原学校校舎（県指定文化財）の他、安土城跡をはじめとする中世城郭の調査研究拠点である旧滋賀県安土城郭調査研究所（旧近江風土記の丘資料館）を併設しています。
- 隣接する「文芸の郷」には、スペイン・ゼビリア万博の日本館メイン展示物として復元された安土城天主を展示している「安土城天主 信長の館」や音楽ホールの「文芸セミナリヨ」、多目的に活用できる「あづちマリエート」などが配置されています。

図表 7：敷地配置図（文芸の郷含む）

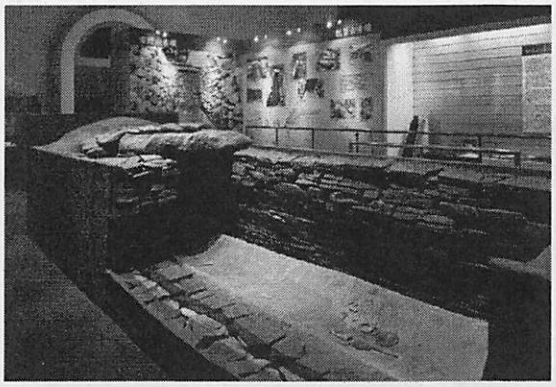
4. 活動内容

- 本館が掲げる３つの活動の柱は、以下の通りです。

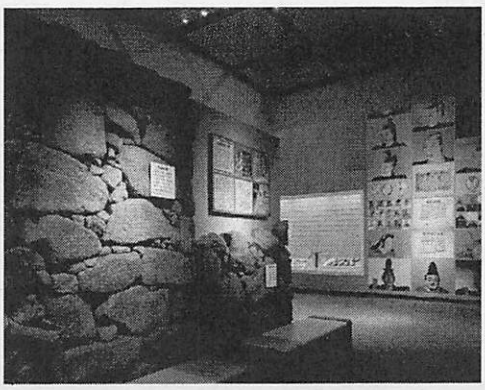
（1）展 示 事 業	：近江風土記の丘その他県内各地の文化財および文化財に関する資料の収集・整理・保管および展示
（2）資料調査事業	：博物館資料に係る調査研究および普及啓発
（3）教育普及事業	：その他博物館の設置目的を達成するために必要な業務

（1）展示事業

- 本館の設置目的「郷土の文化財を保存し、且つその活用を図り、県民の文化の向上に資すること」を達成するための事業の１つ目として、第１・第２常設展示室および企画展示室により、近江風土記の丘を構成する史跡を中心とした展示を実施しています。
- 第１常設展示室では、近江風土記の丘に存在する大中の湖南遺跡（弥生）、瓢箪山古墳（古墳）の遺跡を中心として、関連する時代の展示を行っています。第２常設展示室では、観音寺城跡（中世）や安土城跡（戦国）を中心に城郭を紹介する展示を行っています。
- 企画展示室では、常設展示に関連するテーマを設定し、年４回の特別展・企画展を開催しています。その他回廊やエントランスホールにも展示を行っています。



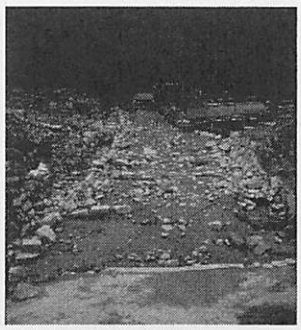
第１常設展示室



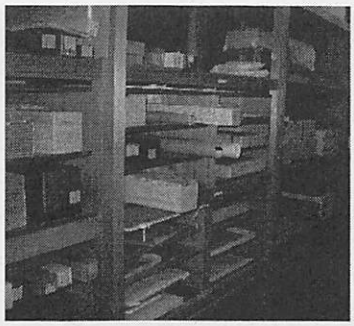
第２常設展示室

（2）資料調査事業

- 2つ目の事業として、資料の調査・収集（資料調査活動）と、設置目的をより深く掘り下げるために行う計画的・集中的な調査・研究（調査研究活動）を展開しています。
- 資料調査事業の対象は、考古・民俗・文献・美術・工芸の各分野に及び、また、調査の成果は各種刊行物を通じて県民へ公開しています。



安土城跡の発掘調査



収蔵庫資料整理状況

資料の整理調査の様子

（3）教育普及事業

- 3つ目の事業として、県内外の学校との連携を深め、高齢者をはじめとする多くの県民が近江の歴史や文化財に親しむことができるよう、学習の場を提供しています。具体的には、講演会や調査報告会等の開催や体験博物館、こども考古学教室等の実施、史跡や展示・施設の案内、図書閲覧サービスやホームページによる情報の提供などを行っています。

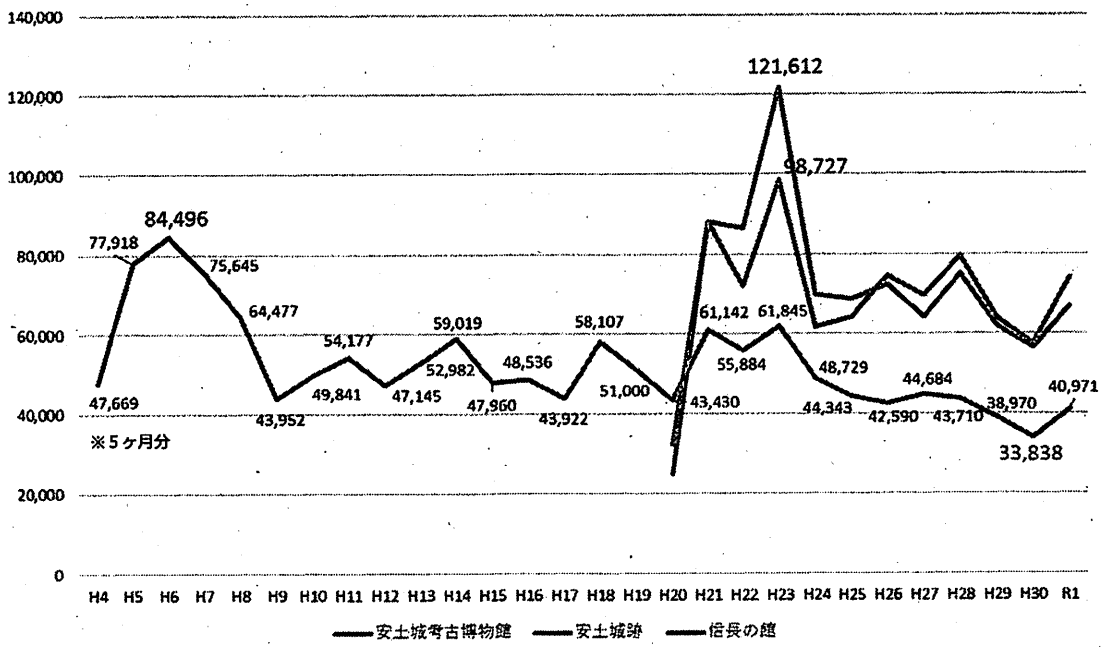
城跡に関する講演会

城郭探訪の様子

5. 利用状況

- 本館と安土城跡および信長の館の入館者・入城者数の推移は以下のとおりです。本館は平成６年度の 84,496 人を最高に、ここ数年は４万人前後で推移し、累計の入館者数は 145 万人を突破しました。現状の年間目標入館者数は５万人です。
- 安土城跡と信長の館と比較して本館の入館者数は少ない傾向にあります。特に、安土城跡と信長の館とでは、毎年３万人程度の差が生じており、隣接しているにもかかわらず足を運んでもらえていないという現状が読み取れます。

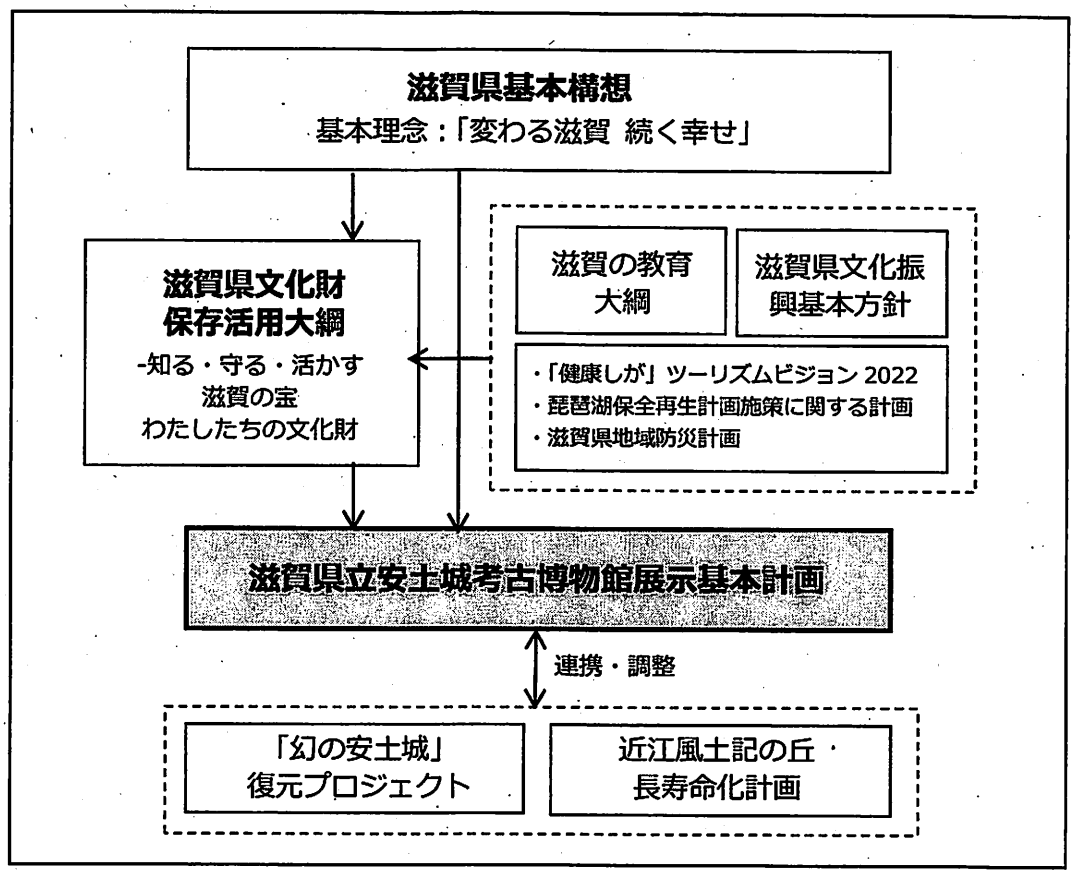
図表８：３施設の年間入館者数の推移



6. 上位・関連計画

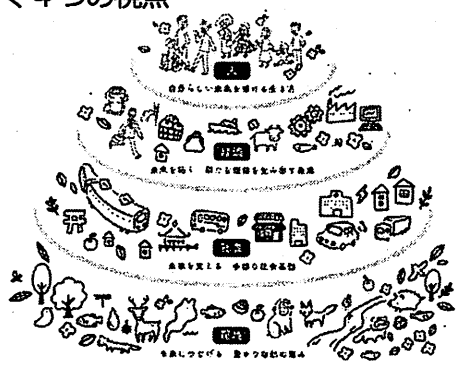
● 本計画に関わる上位・関連計画とその位置づけを、以下に整理します。

図表 9：上位・関連計画（事業）との関連



図表 10：滋賀県基本構想（抜粋）

■2030 年の姿を描く 4 つの視点



「経済」・「社会」・「環境」の調和による持続可能な滋賀

「人」　：自分らしい未来を描ける生き方

「経済」：未来を拓く　新たな価値を生み出す産業

「社会」：未来を支える　多様な社会基盤

「環境」：未来につなげる　豊かな自然の恵み

図表 11：滋賀県文化財保存活用大綱（抜粋）

1

■五つの柱

（4）文化財を保存・継承・活用・発信できる施設の確保

文化財はそれ自体の価値もさることながら、その文化財が生み出され、守り伝えられてきたその場所にあることに価値があります。そのため、社寺等の団体が所有し地域との連携のもとで守られている美術工芸品などについては、文化財収蔵施設の建設や回収への助成などを通じて引き続き支援していきます。

また、地域力の低下により地域での収蔵、保管管理が困難となってきている状況や、自然災害等の不測の事態への備えから、県内において地域の文化財を受け入れ、収蔵、保管管理し、公開活用できる施設を確保していきます。

さらに、これまで行った発掘調査に伴う多くの出土文化財や調査成果のほか、指定により保存を図っている史跡等の価値を広く共有するための公開活用施設や史跡整備の充実を図ります。

図表 12：「幻の安土城」復元プロジェクト

■主旨目的

- 安土城の実像を解明し、それを目に見える形で復元することで、安土城の魅力をより多くの人々に実感してもらうことを目的として実施している事業です。

■プロジェクトの中での博物館の位置づけ

- この中では安土城跡に関する調査研究の成果を発信するため、安土城見える化の拠点として本館を位置づけることとしています。

1-3. 博物館の強み

1. 調査・研究の成果（充実したコレクション）
：調査・研究成果の蓄積と考古資料＋戦国・信長関連のコレクション

2. 歴史的な立地環境
：全国的に著名な安土城跡に近接。、歴史的風土と環境に囲まれる

3. 豊富な特別展・企画展の実績
：話題性・集客性の高い安土城や戦国時代、城郭、信長関連の展示をはじめとする年４回の開催

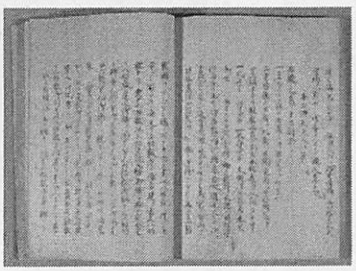
1. 調査・研究の成果（充実したコレクション）

- 本館には、開館以来 28 年に渡る調査・研究と、それらを活用した展示活動や普及啓発活動など豊富な活動実績があります。また、県内の考古資料に加え、平成元年から 20 年間に渡る安土城跡の発掘調査に代表されるように、戦国・信長関連の調査・研究成果の蓄積および充実したコレクションを有しています。

- 本館の収蔵品は、近江風土記の丘資料館からの継承やその後の購入品、寄託品などで構成されています。収蔵資料点数は 29,883 点、うち重要文化財が 5,869 点、県指定文化財が 3,386 点など貴重資料も多数所有しています。

図表 13：登録資料点数（令和 2 年 3 月 31 日時点）

分野	件数	点数
総計	**7,239 件**	**29,883 点**
絵画	119 件	160 点
彫刻	5 件	7 点
工芸品	55 件	97 点
書跡典籍古文書	354 件	17,989 点
歴史資料	595 件	1,574 点
考古資料	6,056 件	10,001 点
民俗資料	55 件	55 点


安土記（天守の次第）

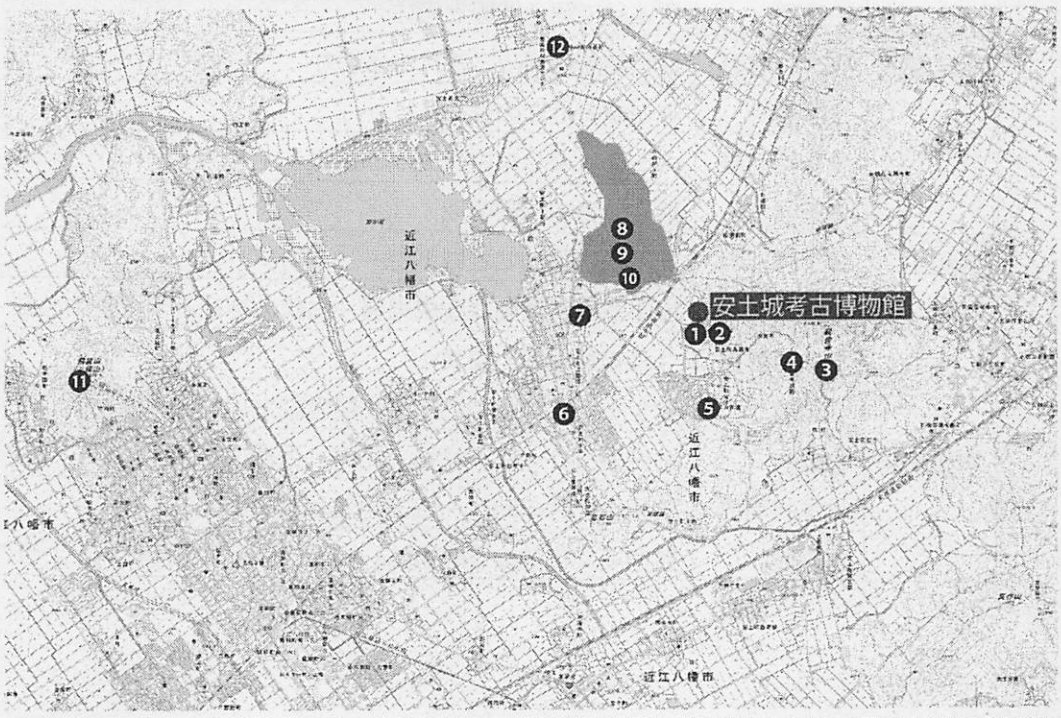
近江国蒲生郡安土古城図（摠見寺蔵）

織田信長朱印状

2. 歴史的な立地環境

- 「滋賀県文化財保存活用大綱」によると、本県は古来より交通の要衝として、政治的・軍事的にも重要な役割を担ってきました。このため、古代・中世・近世と様々な歴史の舞台になっており、令和 2 年現在、国指定文化財が 1,349 件、県指定文化財が 508 件、市長指定文化財が 1,582 件で合計 3,439 件の文化財が指定されています。また、単位面積あたりの城郭数も全国 1 位を誇るなど、全国屈指の文化財保有県になっています。
- とりわけ、近江風土記の丘が位置する安土エリアは、織田信長が天下統一のため築城した「安土城」などで国内外に広く知られており、昨今ではドラマやゲーム等の影響から年齢層を問わずその認知度はますます高まっています。
- また、周囲には近江の守護であった六角氏の居城である観音寺城跡や日本初のキリスト教学校であるセミナリヨ跡など、戦国初～後期の風土および史跡が多く残っています。まさに戦国時代のメッカであり、本館を基点とした歴史・史跡回遊へつながっています。

図表 14：安土エリアの史跡群・歴史関連施設



❶文芸セミナリヨ　❷信長の館　❸観音正寺　❹観音寺城跡　❺瓢箪山古墳　❻安土城郭資料館
❼セミナリヨ跡　❽安土山　❾安土城跡　❿城なび館　⓫八幡山城跡　⓬大中の湖南遺跡

3. 豊富な特別展・企画展の実績

- 本館では調査・研究の成果を発信する場として、年４回の特別展・企画展を開催しています。中でも秋春季特別展では、織田信長と安土城を中心とした城郭・戦国時代をテーマとし、全国各地から資料を借り受け、記念講演会やシンポジウムと併せて専門性の高い展示を行ってきました。

図表 15：直近 5 年分の展示実績

年度	種別	テーマ
平成 28	春季特別展	信長の家臣たち
	企画展	近江の古墳時代
	秋季特別展	飛鳥から近江へ
	企画展	大湖南展
平成 29	春季特別展	信長のプロフィール
	企画展	近江の城を掘る
	秋季特別展	青銅の鐸と武器
	企画展	収蔵品で語る城郭と考古
平成 30	春季特別展	武将たちは何故、神になるのか
	企画展	寺と城ー近江の瓦ー
	秋季特別展	キミそっくりな古代人がいたよ
	企画展	近江の考古学黎明期
令和 1	春季特別展	安土ー信長の城と城下町ー
	企画展	塩津港遺跡発掘調査成果展－古代の神社と祭祀を中心にー
	秋季特別展	「動物美術館」開演！
	企画展	安土・桃山時代の近江展ー琵琶湖文化館収蔵品を中心にー
令和 2	企画展	お城のリユースー信長・光秀・秀吉・家康ー
	秋季特別展	信長と光秀の時代ー戦国近江から天下統一へー
	企画展	琵琶湖文化館の『博物誌』ー浮城万華鏡の世界へ、ようこそ！ー

1-4. 利用者のニーズ

● 本館が開館してから現在に至るまで、博物館を取り巻く状況は大きく変わってきました。このような社会情勢の変化を整理し展示リニューアルの方針として位置付けます。

> **(1) 社会環境の変化：**人口減少社会・超高齢社会への突入や訪日外国人数の増加、新型コロナウイルスの世界的流行など
> **(2) 教育環境の変化：**学習指導要領の改訂や平均・健康寿命の延伸など
> **(3) 博物館を取り巻く環境の変化：**
> 文化財保護法の改正および滋賀県文化財保存活用大綱の策定など

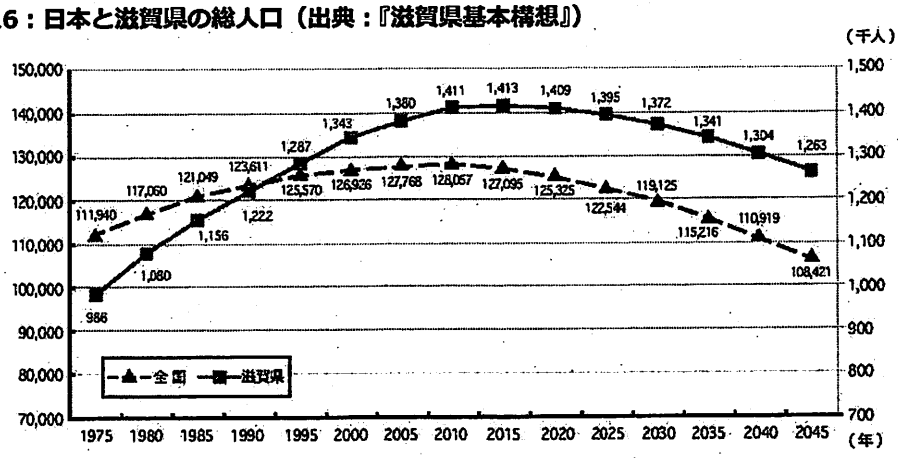
(1) 社会環境の変化

● 日本では既に人口減少社会・超高齢社会に突入しており、本県でも平成 26 年から減少局面に入りました。全国的に見ると若い世代の割合が高い県ではありますが、今後 10 年の間に高齢化が急加速する見込みです。こうした状況を踏まえ、本館でも利用ターゲット層を見定めた計画が重要となります。

● 訪日外国人数は年々増加し、日本政府観光局によると、令和元年には約 3,188 万人を突破し統計以来過去最多を更新しています。本県でも、クールジャパン戦略の一環である日本遺産「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」により、彦根城や白鬚神社などの歴史的文化遺産への入込客が大幅に増加、約 60 万人（前年比＋11.9%）となり過去最高を記録しました。それに伴い、博物館でもインバウンド対応としての多言語表記や携帯端末によるサポート、体験性を高める工夫などが急務となりました。

● しかし、令和 2 年の新型コロナウイルスの世界的流行に伴い、訪日外国人数および国内旅行者数は激減し、回復の目途は立っていません。今後は、直接来館せずとも楽しめるオンラインコンテンツの提供など、博物館も新たな取組が求められています。

図表 16：日本と滋賀県の総人口（出典：『滋賀県基本構想』）



(2) 教育環境の変化

- 学習指導要領が約 10 年ぶりに改訂され、令和 2 年度より順次実施されます。「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け、社会教育施設等の活用についても謳われています。本館でもこれまでの実績を活かした、さらなる活動の充実が求められます。
- 本県は、平均寿命・健康寿命が全国上位で年々伸びており、学習・自己啓発活動やボランティア活動といった生活習慣を持つ人が多いという調査も出ています。学校教育に加え、様々な年代・多様なニーズに応じた学習機会・情報の提供が重要です。

(3) 博物館を取り巻く環境の変化

- 訪日外国人数の増加や地域利用の促進等により、博物館は本来的な機能に加え、文化振興や観光振興、交流促進、第三の居場所といった機能も求められています。
- 地域における文化財の総合的・計画的な保存活用を推進するため、平成 30 年度に文化財保護法の改正が行われました。その中で、文化財を地域の文化や経済の振興の核として、多くの人が参画して地域社会全体で確実に未来へ継承する方策を進めるために、県に対して新たに文化財保存活用大綱の策定を促しています。
- それを受け、本県の文化財を確実に次世代に継承していくため、文化財の保存と活用に関する総合的な施策を定めた「滋賀県文化財保存活用大綱」を令和元年度に策定しました。

2. 本館に対する利用者の要望

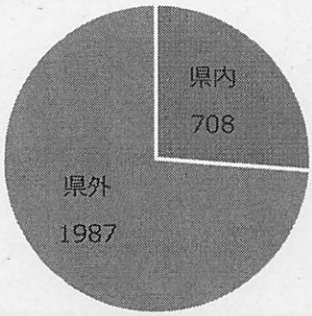
- 利用者アンケート（令和元年度実施：回答総数 2,707 件／回答率 10～15%）より、本館に対する要望を整理しました。

> - 県内利用者の割合が少なく、初めて訪れる利用者も半数以上であることから、県民利用を促しリピーターとなってもらうことが必要。
> - 女性や 20 代以下の若年層へ向けた取組が求められます。
> - 自家用車以外の利用者に対する取組や配慮が必要です。
> - 多くの利用者が安土城跡や信長の館をきっかけに来館するため、本館を基点に周辺施設・史跡へ興味を持たせるしかけ・情報発信が必要です。

図表 17：アンケート結果

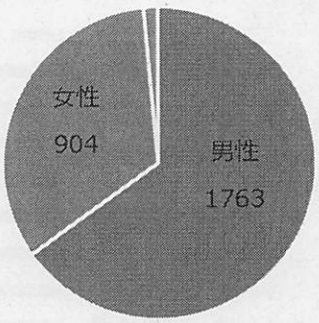
＜居住地＞

・県内と県外の利用者割合はおよそ 3:7



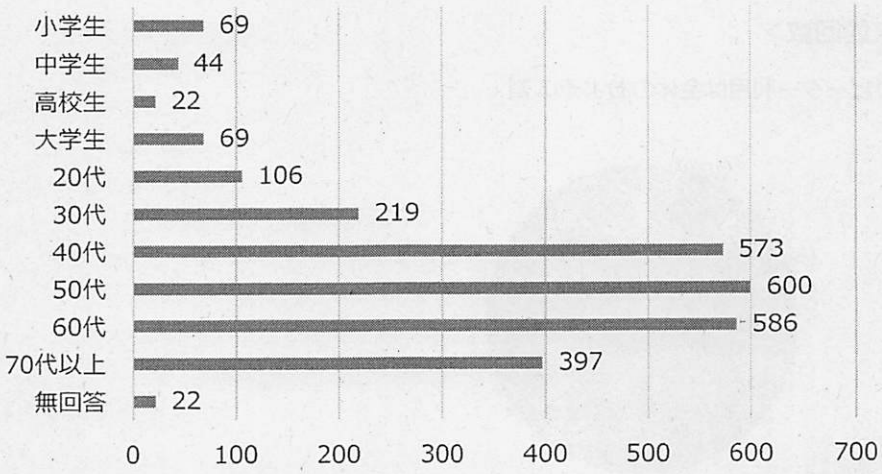
＜性別＞

・男女比はおよそ 2:1 で、男性の方が多い



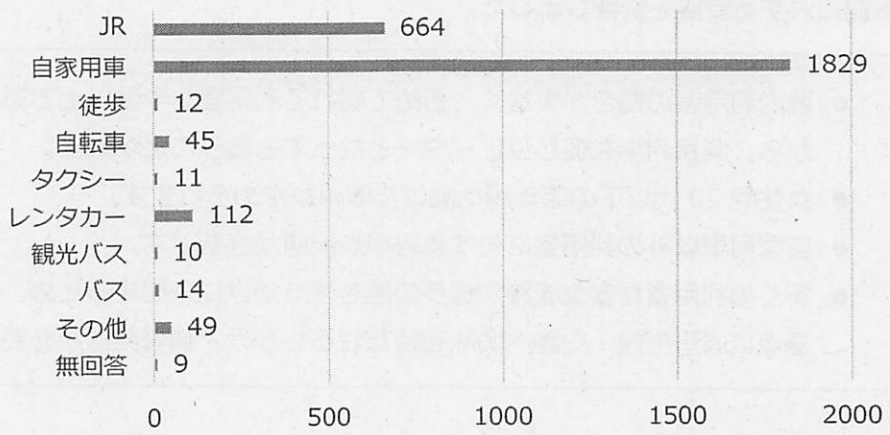
＜年齢＞

・全体の 6 割以上を 40～60 代が占める一方、20 代以下は約 1 割に留まる



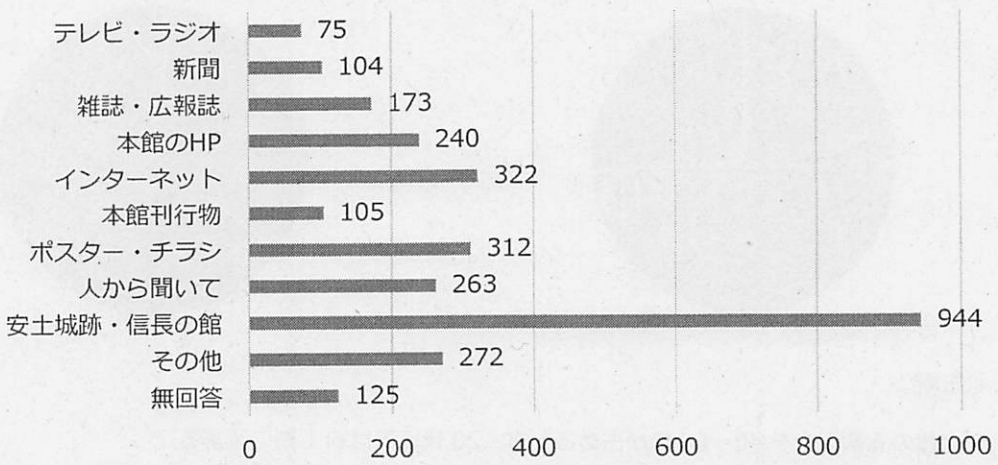
＜交通手段＞

・利用者のうち、およそ７割は自家用車、２割は電車を使って来館



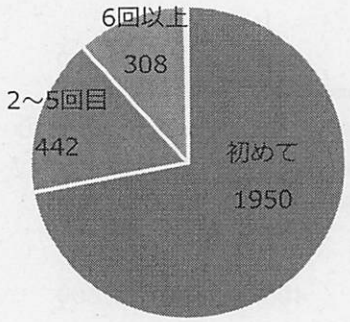
＜展示を知ったきっかけ＞

・安土城跡・信長の館から本館へ訪れる利用者が最も多い



＜来館回数＞

・リピーター利用は全体のおよそ３割



＜自由記述（一部）＞

■常設展示に関する意見

- 模型・モニターなどの展示が見やすかった。
- 天守の内部を知る展示があればと思う。
- 目新しい展示や展示方法が無かったのが残念。
- 天守跡には登れていないが（体力的に無理）、写真を見て満足した。
- PC を使ったクイズや 3D バーチャルなどがあるとよい。
- 常設展は色々な城を紹介しているが、何が言いたいのか分からなかった。
- 体験型展示があればよかった。
- 音声案内があるともう少し分かりやすい。
- 信長についてもっと前面に打ち出してほしい。
- メインとなるものをドーンと見せた方がよい。
- 安土城が築城された頃と現代の地図が重なっているように表現された模型や映像があると面白い。
- 戦国時代を詳しく、分かりやすく情報発信した方がよい。など

■特別展示・企画展示に関する意見

- 常設展示に比べて見応えがあった。
- プチ情報のような小さなコメントのものが分かりやすかった。
- 考古学的展示物が豊富で参考になった。
- 信長に関連した企画展を数多く開催してほしい。安土城＝信長だから。など

■その他・全体に関する意見

- 入場料が高い。
- 外国人の来場者へどのように対応するか検討する必要あり。
- 館内で喋れるようにしてほしい。
- 足が悪いため、車椅子または電動椅子がほしい。
- 駅から遠いのが残念。往復タクシーは金銭的に厳しい。
- ルビがあると分かりやすい。
- 写真撮影ができないのが残念。
- 博物館のことがあまり知られていない。ネットを活用した PR 拡大をした方がよい。など

1-5. 課題

- 本館においては、機能面・設備環境面で不十分な状況にあり、以下に示すような課題が挙げられます。

> **1. 利用者ニーズとのかい離：**展示コンセプト・テーマの設定など
> **2. 設備・展示物の老朽化：**展示物や手法の見直し、更新性への配慮など
> **3. 公開承認施設の機能維持：**空間環境・設備・展示ケースの改修など
> **4. 利用者サービスの充実：**多言語対応、オンラインコンテンツの充実など
> **5. 回遊のしくみづくり：**ガイダンス機能の充実、サインの設置など
> **6. 集客性の向上：**情報発信の取組強化、名称・愛称の見直しなど

1. 利用者ニーズとのかい離

- 現状では、開館当時の方針で近江風土記の丘資料館の後継施設としての色を強く打ち出している一方、利用者の多くは安土城や信長、戦国に関する情報を求めて本館へ訪れています。また、利用者アンケートや企画展入館者数からも安土城や信長に強い関心が寄せられていることが読み取れ、利用者ニーズと展示内容との間にかい離が生じています。
- 展示スペースが限られているため、どの史跡・時代もガイダンス程度に留まり、展示内容に広がりがありません。特に、安土城や信長の情報量は少なく、安土城跡との一体感を創出できていません。
- 安土城跡に近接する立地特性や豊富な調査・研究成果をこれまで以上に活用し、他館との区別化や内容のメリハリを踏まえて、従来の利用者層だけでなく幅広い層への発信として、展示コンセプト・テーマの見直しを行う必要があります。

2. 設備・展示の老朽化

- 開館以降、常設展示の抜本的な更新ができておらず（平成 13 年の一部リニューアルはレイアウトの変更やケースの増設がメイン）、平成元年から 20 年かけて実施してきた安土城跡の調査成果が十分に反映できていません。そのため、入館者数は伸び悩み、一度来たら十分と考える利用者も多く、リピーター確保へつながっていません。
- 経年変化による映像・模型・パネル展示などの陳腐化による発信機能の弱体化、利用者の理解を効果的に促す参加体験型の展示の不足が見られます。最新デジタル技術を活用するなど、子どもや外国人でも直感的に楽しめる展示が求められています。

3. 公開承認施設の機能維持

- 本館は文化庁の承認を受けた公開承認施設であり、それに関する規程の承認基準を満たす機能を保持する必要があります。
- 展示室においては、高天井、不定形状のため安定した温湿度環境が保ちづらくなっている他、大型開口・吹き抜け空間に隣接するため外気や粉塵の流入が想定されます。設備面では機器更新時期に伴う経年劣化、また、展示ケースも環境や使い勝手、メンテナンスの面で改善の余地があります（建築設備改修に関する詳細な課題や改善方針については、第５章を参照のこと）。

> **設備：**空調設備の劣化、バトン操作による照明の使いづらさ・運用負荷など
> **展示ケース：**企画展示室の中央ウォールケースの分断、ガラス面への反射による見づらさ、両側２ヶ所からの入替による破損リスク、蛍光灯の使用など

4. 利用者サービスの充実

- 車いす利用者や視覚・聴覚等に障害をもつ方、外国人も含めた全ての人々に開かれた施設としての整備を図る必要があります。中でも、解説パネルの多くは多言語化されておらず、外国人に対する情報提供が不十分な状況です。
- 子どもや高齢者にも読みやすい表現やルビ表記、文字サイズ等への配慮が必要です。
- 展示内容の更新に加え、何度も訪れたくなるしかけについて検討する必要があります。
- 直接訪問する以外に本館の展示を楽しめるオンライン上のコンテンツが少ないため、たとえば滋賀県立図書館が運営する「近江デジタル歴史街道」や近江八幡市の「近江八幡市歴史浪漫デジタルアーカイブ」など、With コロナ期における博物館の在り方を検討する必要があります。

5. 回遊のしくみづくり

- 館内において、周辺施設や県内史跡などのガイダンスが十分に行えていません。多くの利用者が安土城跡や信長の館をきっかけに来館するため、本館を基点に周辺施設・史跡に興味を持たせる仕掛け・情報発信が必要です。また、本館だけでなく、近江風土記の丘公園や市域全体を展示・活動の場とするなど、エコミュージアムの視点で一体的に検討していく必要があります。
- 近江風土記の丘公園内における誘導サインや案内板、解説サイン等の視認性が弱く、デザイン的な統一も図れていません。

6. 集客性の向上

- 現在のメイン利用者（40～60 代の男性）の満足度向上に加え、これまで集客の弱かった子どもとその家族、20 代以下の若年層および無関心層を本館に引き込むしかけや情報発信の仕方を、オンライン・オフライン問わず検討する必要があります。
- 安土城跡や隣接する信長の館をきっかけに本館へ訪れる人が多い一方、年間入館者数では差が生じているため、より多くの利用者を本館へ引き込むための魅力的なコンテンツや情報発信が求められます。
- 最寄駅から本館へのアクセスが不便で、利用者の多くが自家用車での来館です。アクセスについて物理的な解消は難しいものの、自家用車以外の利用者に対するサービスや取組についても検討する必要があります。
- より親しみを持ってもらうとともにリニューアル感を創出するため、現状の施設名称「安土城考古博物館」や愛称についての検討も必要です。

第２章　展示リニューアルの基本方針

2-1. 基本的な考え方

1. 各展示室の展開について

- これまで述べてきたとおり、本館は開館以来、近江風土記の丘公園の中核施設として各史跡を紹介するとともに、地域の歴史・文化への理解を深めるためのテーマを設定した地域博物館として運営してきました。
- 展示リニューアルの基本方針を検討するにあたり、「現状の展示コンセプトを維持する展示」と、課題として挙げている利用者ニーズに合わせた安土城や信長などに特化する「安土城・信長・戦国をテーマとする展示」の２つの方向性について、本館の将来像を見据えたうえで、それぞれの期待効果や課題等を整理しました。

図表 18：展示内容の比較

	【A 案】現状の展示コンセプトを維持する展示	【B 案】安土城・信長・戦国をテーマとする展示
テーマ	第２常設展示室 **中世・戦国** ↕ 第１常設展示室 **弥生・古墳** → 企画展示室	第２常設展示室 **安土城・信長・戦国** ↕ 第１常設展示室 **安土城・信長・戦国** → 企画展示室
特徴・役割	● 近江風土記の丘の史跡を巡るガイダンスとしての展示	● 新しいデジタル技術等を活用し、従来のイメージを払拭。ここにしかない、ここでしか見ることができない展示 ● 「幻の安土城復元プロジェクト」の中核施設・情報拠点施設
ターゲット	● 近江風土記の丘の史跡や県内の考古・歴史に広く興味がある人	● 大人から次世代を担う子ども ● 戦国ファン

	【A案】現状の展示コンセプトを維持する展示	【B案】安土城・信長・戦国をテーマとする展示
リニューアル感	● 展示造作や手法は新しくなるが、扱うテーマや内容に変化がないため、インパクトに欠ける	● 展示コンセプトやテーマが明確となり、分かりやすくなる ● テーマを絞り内容の充実やスペースの拡大を図ることにより、デジタル技術や大型映像等を使った展示など、リニューアル感を創出しやすい
期待される効果	● 25 年ぶりに展示具や手法が刷新され、古代から中世までの地域の歴史を改めて学ぶことができる	● 「安土城・信長・戦国」のロマンを求めて訪れる利用者の期待と一致する ● 安土城跡と本館の一体性が生まれる ● 隣接する信長の館との集客数の差を埋めることができる
課題・方策	● 「安土城・信長・戦国」のロマンを求めて訪れる利用者の期待に応えられない ● ここにしかない独自性や安土城跡の立地特性を活かしきれず、現状以上の大きな集客が見込めない	● 弥生時代や古墳時代の展示がなくなるため、近江風土記の丘としてのガイダンス色が薄れる → 現地案内のための情報発信機能を強化する他、特に企画展において近江風土記の丘関連のガイダンス部分の展示を強化する

2. 展開の方向性および今後の検討課題

- 前章の課題等の解決へ向け、今回の展示リニューアルにおいては、安土城跡に近接する立地特性や「安土城・信長・戦国」の歴史ロマンを求めて訪れる利用者ニーズへの対応、集客性の向上、施設規模の制約などを総合的に検討し、テーマを絞り、ここ安土でしかできない、特徴ある展示とすることが適切であると判断し、本計画では「B案」を採用します。
- このことによって失われる、第1常設展示室の両史跡のガイダンス機能と、これまで館の活動としてあまり位置づけられていない近江風土記の全体のガイダンスおよび現地誘導については、新たな情報発信機能を検討する必要があります。
- 本県の埋蔵文化財部門の公開活用については、今後も発掘調査成果の蓄積が続くことから、開館当初からの近江風土記の丘のガイダンス機能を超えて、県全体の通史や考古展示を常設展示のみで担っていくことは、スペース的に困難であると判断されます。また、特別展・企画展等も含め、考古展示が肥大化することでが、本来の展示コンセプトやテーマを薄れさせ、安土城跡を訪れる利用者ニーズとのかい離を生じさせている現状を考えると、将来的に、埋蔵文化財センターなど、考古遺物の公開展示を担うべき部門の位置づけや役割を見直す必要があります。

2-2. 基本方針

1. めざす姿

- 前節の基本的な考え方より、本館のめざす姿を以下のとおり設定します。
- 安土城および信長、戦国をメインテーマに本県の歴史文化に関する情報を発信し、来館者の興味・関心を高めます。

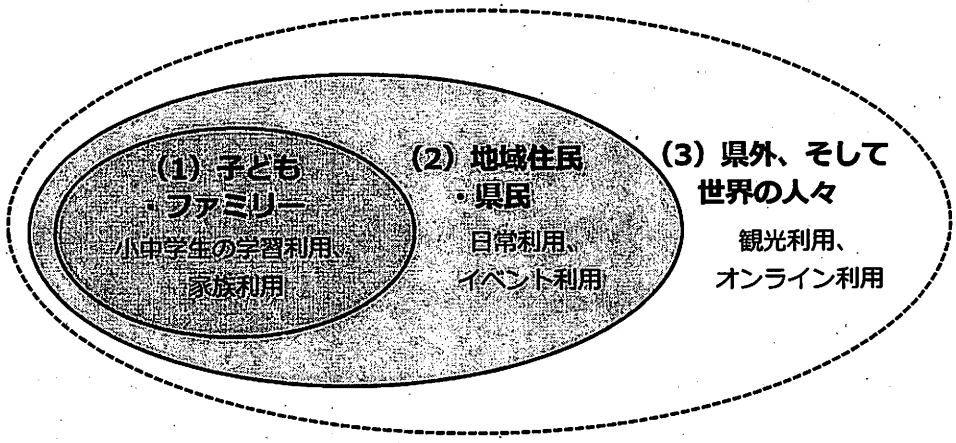
安土城と信長・戦国をテーマとする唯一無二の博物館として、
その情報・魅力を発信する

安土城・信長・戦国 魅力発信拠点

2. ターゲット

- 本館は社会教育施設であるため、オールターゲットの展示・活動を行いますが、新しい展示においては、特に「子ども・ファミリー」をコア・ターゲットとして位置づけ、集客力の向上を目指します。

図表 19：本館のターゲット



(1) 子ども・ファミリー（コア・ターゲット）

- 安土城・信長・戦国を中心とする滋賀県の歴史文化の理解促進へ向けて、本県の未来を担う子どもたちにとって効果的な展示を展開します。
- 本館は立地上、自家用車での家族利用がメインであるため、親子で楽しめる展示や体験プログラムの提供、親世代の満足できる展示内容の充実など、多世代で楽しめる展示・活動を行います。
- 本館を利用した子どもたちが将来保護者として再び訪れる、また地域文化へ興味を持ち生涯学習の場として利用するなど、次代につながる循環型の利用を目指します。

(2) 地域住民・県民

- 本県の歴史文化の価値や魅力を伝え、地域への誇りや愛着、また、安土城跡を郷土の宝として認識し将来にわたって守り継いでいく機運を醸成します。
- 地域文化の創造の拠点として、周辺施設や県内史跡、隣接する文芸の郷などとも連携した活動を行い、地域住民・県民が日常利用しやすい、身近で居心地のよい空間を創出します。

(3) 県外、そして世界の人々

- 本県の歴史文化の情報発信を通じ、さらなる認知度向上・ファンづくりを実現します。また、本館だけでなく公園全体をフィールドとし、様々な展示や活動を展開します。
- 館外からでも楽しめるオンラインコンテンツを提供するなど、With コロナ期における新たな展示・文化観光の在り方を検討します。

3. 展示リニューアル方針

- めざす姿の実現へ向けて、本リニューアルにおける基本方針を以下に示します。

図表 20：展示リニューアル方針

1 【唯一性】安土でしかできない安土城・信長・戦国

2 【継続性】	3 【多様性】	4 【回遊性】
展示・保存環境を強化し、文化財資料を次代へ継承	あらゆる利用者が楽しめるしかけづくり	情報発信機能の強化で、県内の回遊性を向上

1 【唯一性】安土でしかできない安土城・信長・戦国の展示

- 発掘・調査・研究に関する豊富な実績と成果をもつ本館の強みを活かし、ここにしかない唯一性のある展示リニューアルを行い、文化財の保護、公開活用に貢献します。
- 県民や国内外の方々へ、安土城や信長・戦国により親しみを持ってもらう展示とし、本館への集客力を高め地域振興・観光振興につなげます。

2 【継続性】展示・保存環境を強化し、文化財を次代へ継承

- 公開承認施設としての機能保持・改善を実現します。
- 空間環境や設備、展示ケースの調査・検証を行い、貴重な文化財資料の保存・公開機能をより強化する設備・環境を整えます。
- 費用対効果の高い機能・手法を検討し、必要最小限の改修での機能強化を目指します。

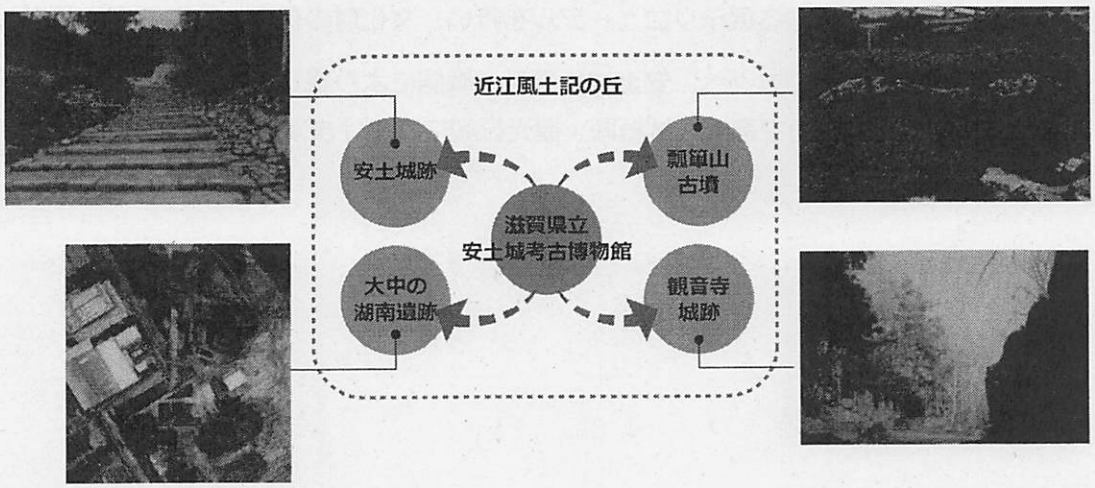
3 【多様性】あらゆる利用者が楽しめるしかけづくり

- 本県を代表する文化観光拠点として、近接エリアに来訪する観光客を引き込むと同時に、歴史ファンも満足する魅力ある情報を発信します。
- 障害の有無や年齢・国籍に関わらず、訪れる全ての人が楽しみ、学べる展示とします。
- 展示内容の更新頻度を高め、訪れるたびに新しい発見を伴う展示を目指します。発掘調査成果や資料の入れ替えがしやすいケースやパネルなど、展示替えのしやすいシステムを検討します。

4 【回遊性】情報発信機能の強化で、県内の回遊性を向上

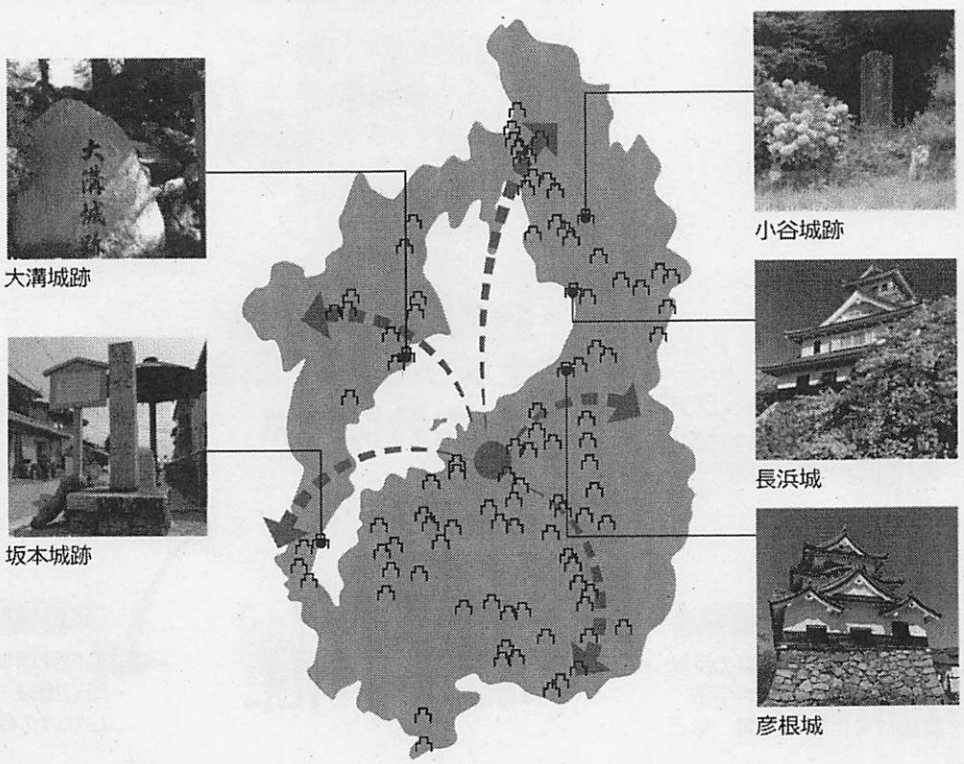
- 本館を基点に、安土城跡や観音寺城跡をはじめとする近江風土記の丘の回遊性を高めるとともに、近接する水郷や八幡地区、さらには本県の観光施設・スポットなどへの回遊につながるしかけやガイダンス機能の充実を図ります。
- 全国髄一の城郭数を誇る本県の特徴を活かし、本館から各地の城跡や戦国関連スポットが巡れるよう、館内の情報発信機能や各史跡群との連携を強化します。

図表 21：本館を基点とする安土エリア回遊の図



図表 22：本館を基点とする県内観光スポット回遊の図

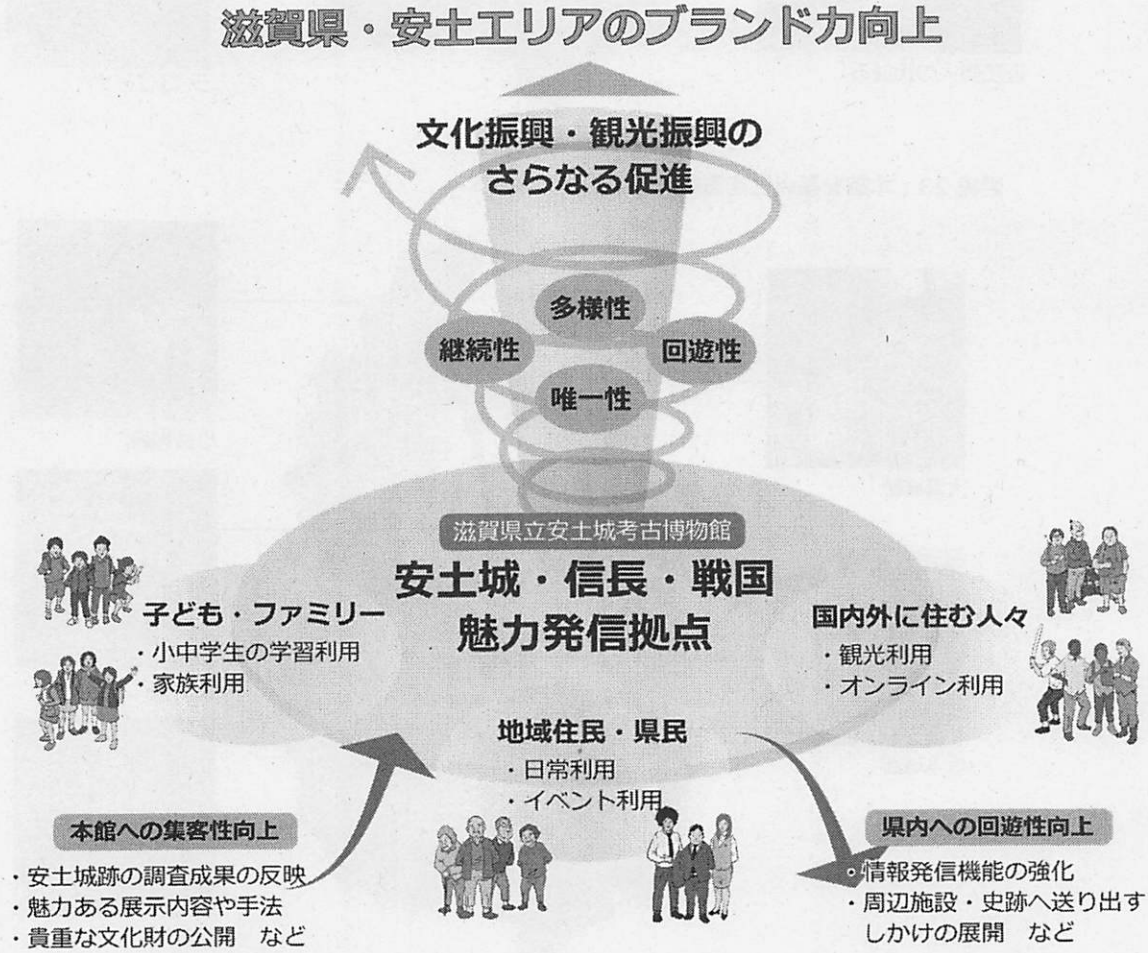
図表 23：本館を基点とする県内城跡回遊の図



4. 期待される効果

- これらの方針を基に展示リニューアルを推進し、より多くの子どもたちや地域住民が安土城・信長・戦国をはじめとする本県の歴史文化に触れ、親しむ場や機会を創出します。そして、郷土に対する愛着や誇りの醸成、そして本県が有する文化財の保存・継承を図り、本県の文化振興の発展を目指します。
- また、歴史文化に関する多様な文化資源を観光資源として、これらの価値や魅力をさらに磨き上げ発信することで、本館を基点とする県内全体のにぎわいや経済波及につながり、本県の観光振興にも寄与します。
- 今回の展示リニューアルを一つの起爆剤として、滋賀県全体の文化振興および観光振興を図り、本県と安土エリアのさらなるブランド力向上を実現します。

図表 24：展示リニューアルにおける期待効果

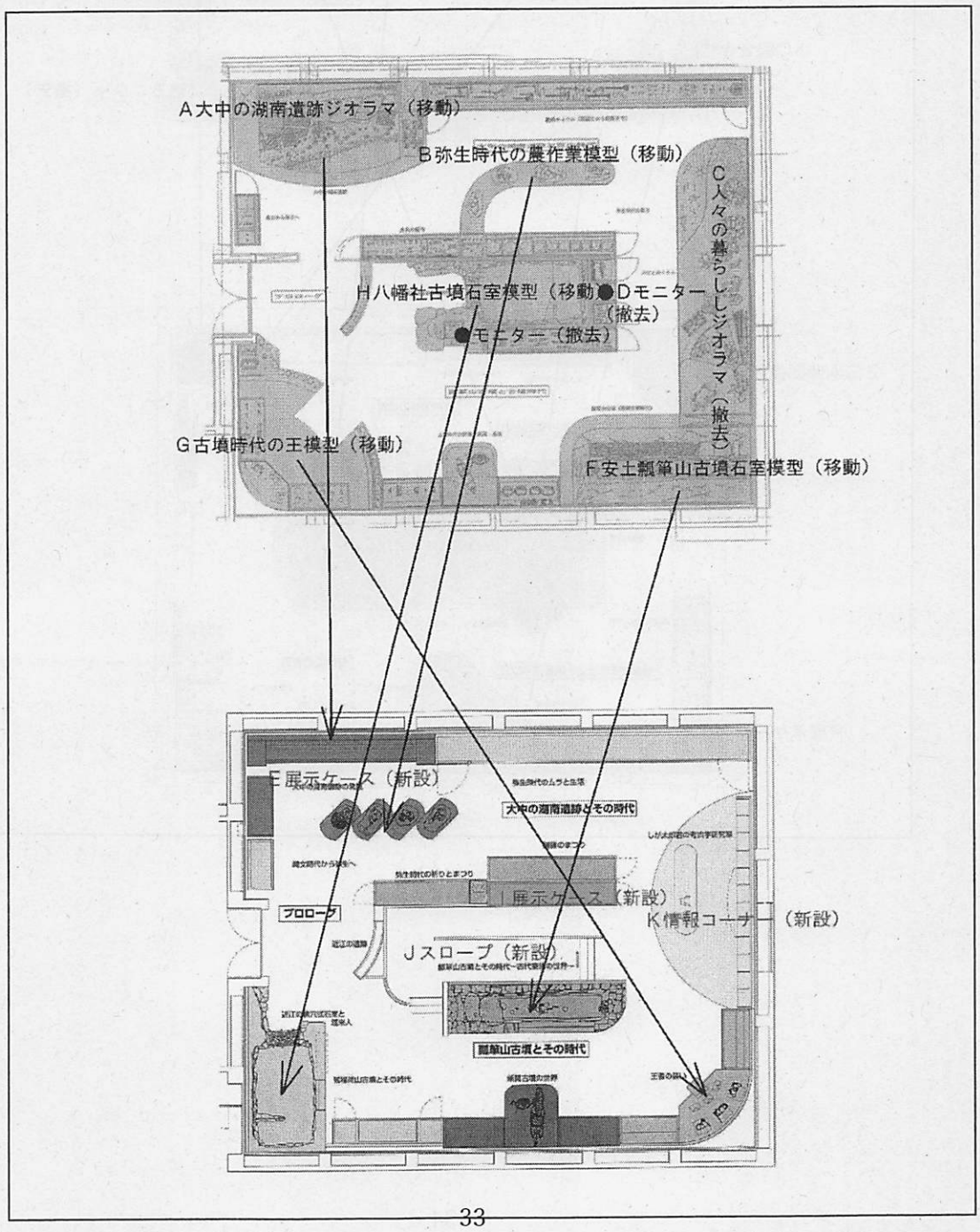


2-3. 展示リニューアル整備の概要

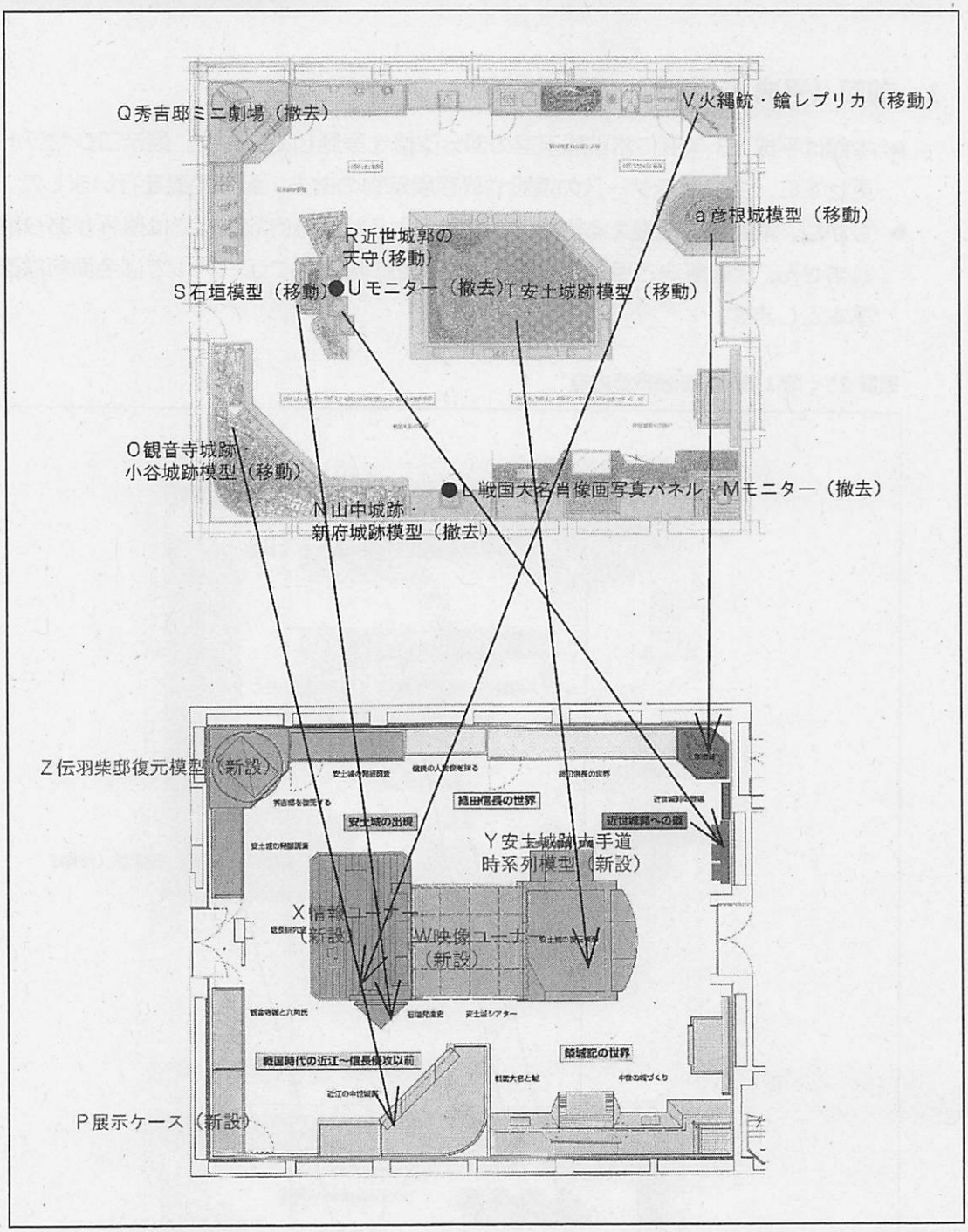
1. 前回（平成 13 年度）の改修内容

- 本館は平成 13 年度に常設展示室の部分改修を実施しています。展示コンセプトは変更せずに、主に展示ケースの増設や既存展示物の撤去・配置変更を行いました。
- しかし、本館が現在抱える課題は、前回のような部分的な改修では限界があり解消されません。課題解決と目標達成にむけて今回の展示リニューアルでは全面的な改修を基本とします。

図表 25：第 1 常設展示室改修内容



図表 26：第 2 常設展示室改修内容



2. 現状の諸室構成

● 本館における現状の諸室の概要は以下のとおりです。

図表 27：諸室構成

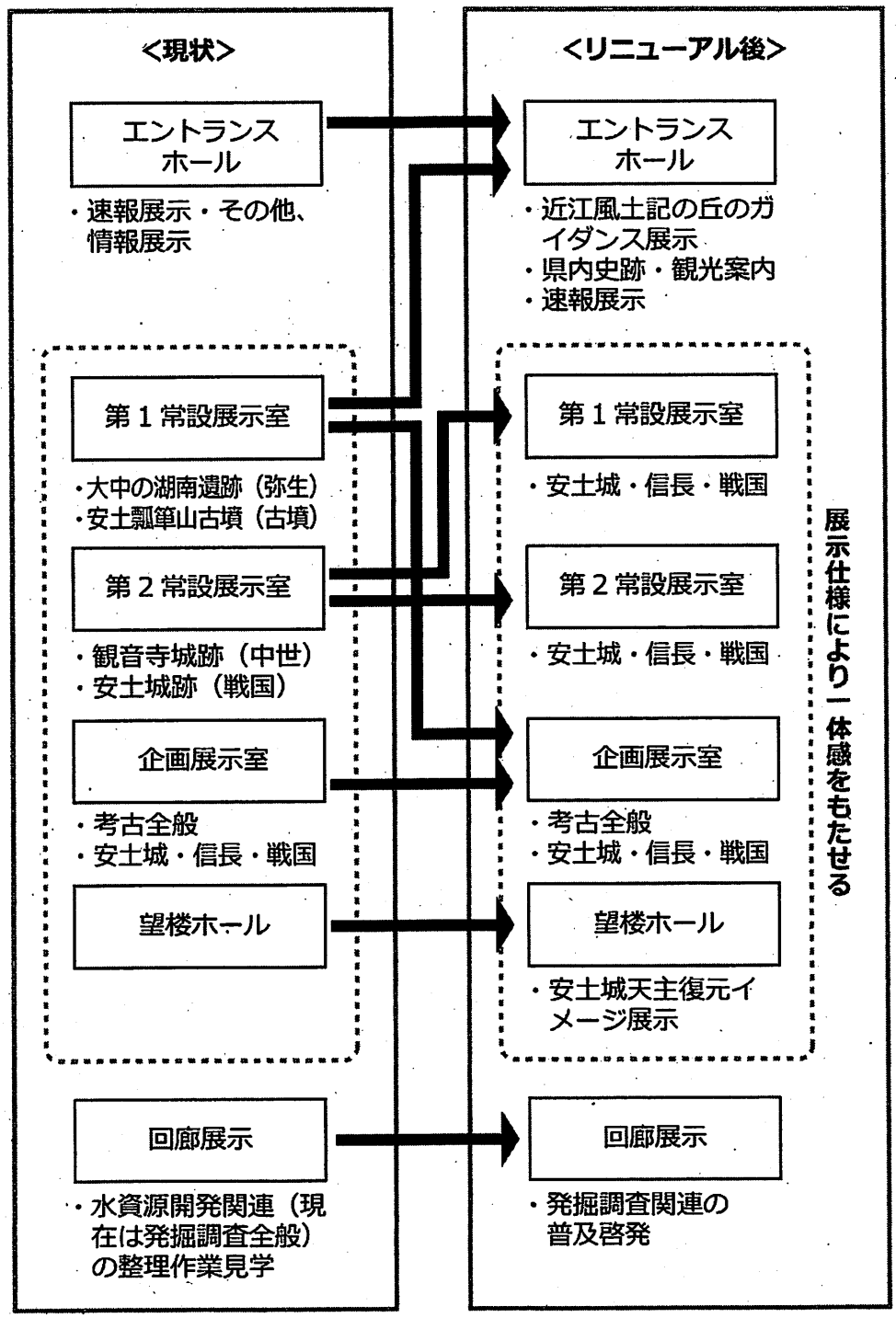
部門	諸室	概要	面積
展示	第 1 常設展示室	近江風土記の丘に存在する大中の湖南遺跡（弥生）、瓢箪山古墳（古墳）の遺跡を中心として、関連する時代の展示	383.1 ㎡
	第 2 常設展示室	観音寺城跡（中世）や安土城跡（戦国）を中心に城郭を紹介する展示	383.1 ㎡
	企画展示室	常設展示に関連するテーマを設定し、年 4 回程度開催する特別展・企画展	294.5 ㎡
	望楼ホール	発掘調査や研究成果等の速報等情報展示	97 ㎡
収蔵	企画展収蔵室、企画展収蔵庫、第一収蔵室、第二収蔵室、第三収蔵室、荷解室、特別収蔵庫、資料保管室、倉庫他		1,653 ㎡
教育普及	情報コーナー、図書室、セミナールーム		275.9 ㎡
研究	整理室、製図室、保存処理室、分析室、X 線写真室写場、暗室、準備室、燻蒸室、その他		724.5 ㎡
事務管理	館長室、応接室、事務室、学芸員室、会議室、管理室、休養室、その他		270.9 ㎡
その他	エントランスホール	発掘調査や研究成果の速報等情報展示	152.1 ㎡
	回廊展示	資料の調査・整理・復元作業の様子を回廊の窓越しより見学（財団法人滋賀県文化財保護協会に貸出）	—
	ラウンジ、風除室、通路・ポーチ、切符売場・売店、喫茶コーナー、厨房・厨房事務室、電気室、機械室、便所・給湯室等、倉庫他		1,611.9 ㎡
		全体計	5,846 ㎡
屋外	付属棟（多目的施設）など		310 ㎡

3. 整備範囲

● 今回の展示リニューアルでは、主に展示活動に係る部分「第 1 常設展示室」「第 2 常設展示室」を整備範囲として想定します。ただし、本館の展示部門には「企画展示室」「望楼ホール」が含まれ、電気・空調等の設備も同機していることを踏まえ、展示部門の一体感および施設改修の一体性から、連動・関連する部分については整備範囲として捉えることとします。

- また、常設展示室の改修に伴って、低下する機能を補完し、向上させるために「エントランスホール」の活用も検討します。
- これらと併せて、回廊展示や中庭等、館全体の活用の位置づけについても検討します。

図表 28：整備の考え方



第３章　展示計画

3-1. 基本方針

1. 展示方針

- 本館の展示方針について、以下のとおり設定します。

> **(1) 安土城・信長・戦国を誰にも分かりやすく、楽しく伝える展示**
> **(2) 安土城跡のガイダンスおよび安土城登城の疑似体験となり得る展示**
> **(3) 県民との連携および来館者の参画を促す展示**
> **(4) いつ、何度来ても発見のある展示**

(1) 安土城・信長・戦国を誰にも分かりやすく、楽しく伝える展示

- コア・ターゲットである子どもやファミリーをはじめ幅広いニーズを想定し、利用者が安土城・信長・戦国の魅力や親しみを感じる展示とします。
- 展示は通史ではなく、豊富な発掘資料や研究成果を活用し、安土城・信長・戦国を扱う「テーマ展示」により構成します。
- 博物館展示の基本である実物資料を中心とした展示を主としながら、最新デジタル技術による手法を併せて用い、設定するテーマ「安土城・信長・戦国」のすべてが様々な形で学べる体感性のある展示を展開します。

(2) 安土城跡のガイダンスおよび安土城登城の疑似体験となり得る展示

- 安土城跡に近接した立地特性と調査成果を活かし、安土城跡の見学前にはガイダンス展示として登城前の知識とワクワク感を創出し、見学後にはより理解を深められる展示として、現地と一体性のある展示を行います。
- 車いす利用者やご高齢の方など実際に安土城跡に登城することが難しい方々にも、現地の臨場感を実感でき楽しんでもらえるよう、最新のデジタル技術を活用した手法を検討します。また、高さのある天井など既存の空間形状を活かした展示を検討します。

(3) 県民との連携および来館者の参画を促す展示

- 一方的な情報伝達だけでなく、研究成果から導かれる新しい発見など、利用者の個々の要求に応じて情報を提供する、双方向性のある展示を展開します。
- 展示物の映像内に県民が演者として出演するなど、展示製作時における県民参画のしくみについても積極的に検討します。
- 展示をパッケージ化し県域の観光施設等に設置するなど、本館との接点を館外にもつことで、博物館活動の周知ならびに来館者数の増加につなげます。
- これまで行ってきた他館との連携展示などの実績を活かして、そのネットワークの拡充を図ります。

(4) いつ、何度来ても発見のある展示

- 発掘や調査研究の進捗に合わせて展示内容や資料を更新できるよう、展示替えのしやすいケースや什器、システムを採用します。
- 学芸員の他、県民の活動成果等も反映できる展示も検討します。

2. 展示コンセプト

- 前節の展示方針より、本館の展示コンセプトを以下のとおり設定します。

安土城・信長・戦国の世界を体感できる展示

- 安土エリアには、安土城や信長に関連する展示施設が複数あり、それぞれが特徴をもって運営されています。その中でも本館は、発掘・調査・研究の成果や豊富な特別展・企画展の実施などに裏打ちされた強みがあり、網羅性・専門性の高い展示を行うことが可能です。「安土城・信長・戦国の世界を体感できる展示」を基本的な考え方として、社会教育施設としての普遍性とともに本館ならではのオリジナリティあふれる展示を実現します。

3-2. 展示構成

1. 展示構成

- 安土城・信長・戦国をテーマに、第１常設展示室では安土城と信長に関するガイダンス展示を、第２常設展示室では社会背景や取り巻く環境など戦国という時代を多角的に紹介する展示を行います。

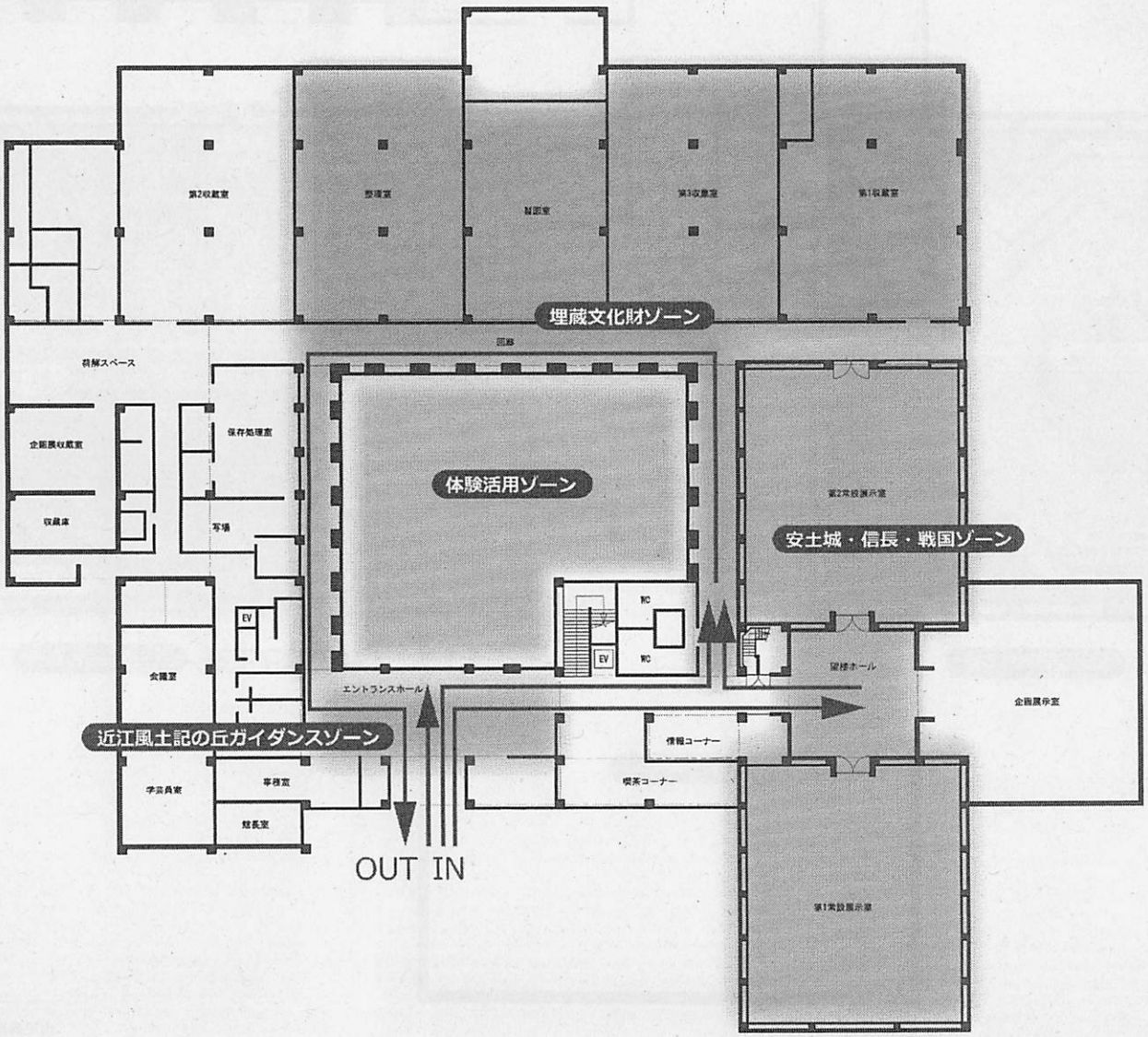
図表 29：展示構成表（現段階での試案）

展示室／大テーマ		ねらい	コーナータイトル		展示概要	主な展示資料
第1常設展示室	天下人信長と安土城	信長の価値、安土城の価値をデジタル映像で展開し、安土・戦国・信長全体のガイダンスを行う	映像1	天下人織田信長の登場	・信長の生誕から、天下人となるまでの過程を紹介	・映像
			映像2	安土城築城	・近江という国、安土という地の歴史性を紹介 ・安土の歴史的・地域的特色など、信長がなぜ安土を選んだかを示す	・映像
			映像3	よみがえる安土城	・安土城についての調査研究から、安土城の実像に迫る	・映像
第2常設展示室	安土と安土城	近江と安土の価値の位置づけ	プロローグ	近江という国、安土という土地	・古代から中世の安土に触れる	・考古学的成果
		戦国の近江の状況を解説	戦国の近江	京極氏・浅井氏と六角氏の時代	・信長侵攻前夜の近江の支配状況を説明	・浅井長政像 ・浅井長政発給文書 ・六角氏式目 ・六角氏発給文書
				戦国近江の城～巨大山城から土豪の城館まで	・信長侵攻前夜の近江の城郭の状況を説明	・佐々木古城跡繖山観音山画図 ・上平寺城絵図 ・小谷城絵図 ・考古学的成果

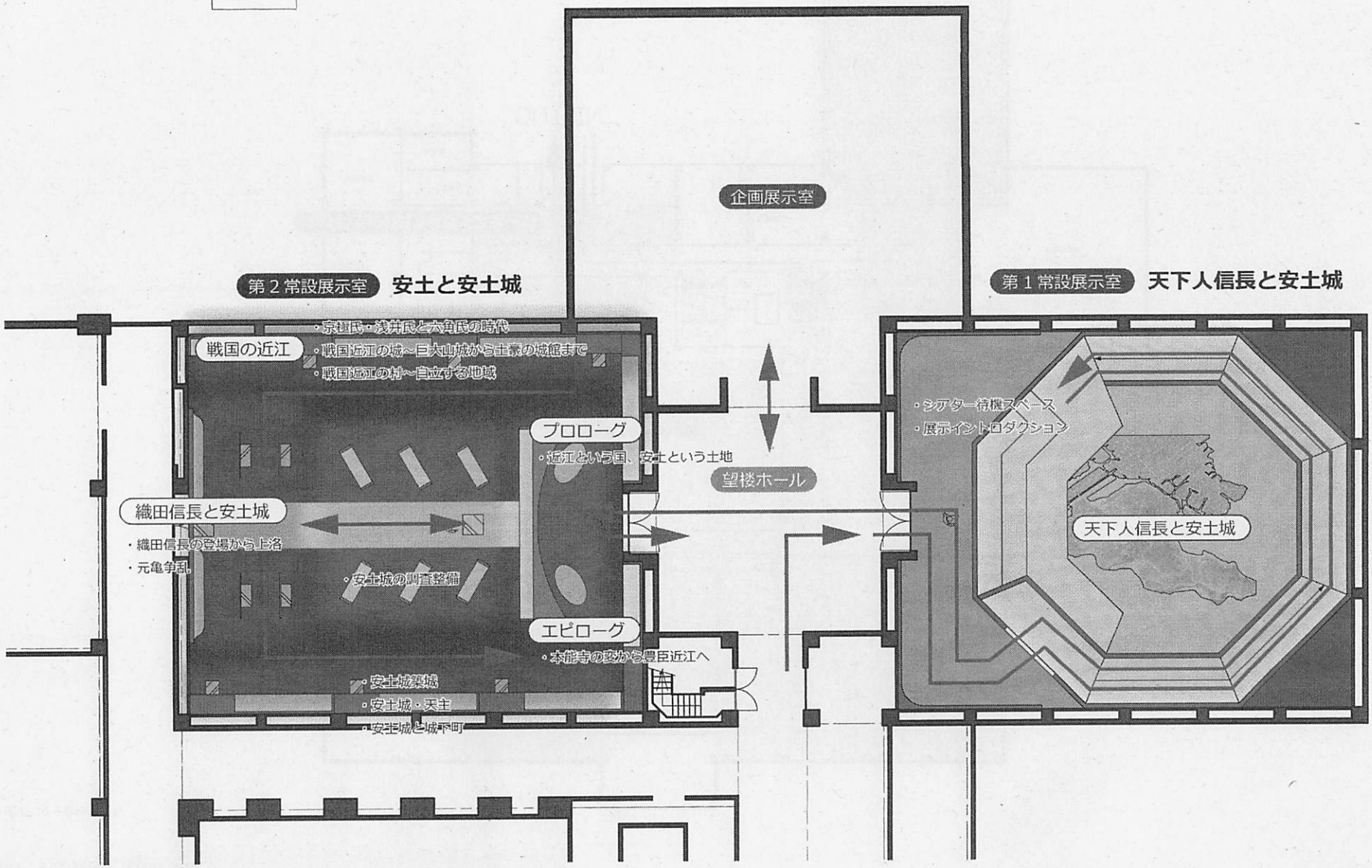
展示室／大テーマ		ねらい	コーナータイトル		展示概要	主な展示資料
第2常設展示室	安土と安土城			戦国近江の村～自立する地域	・村の城、郡中惣の城を説明	・安治区有文書 ・須恵八幡神社文書 ・橋下左右神社文書 ・考古学的成果
		織田信長と安土城を解説	織田信長と安土城	織田信長の登場から上洛	・映像で見せた信長の半生を、改めて説明	・織田信長像 ・織田信長発給文書 ・安土記 ・信長記 ・足利義昭発給文書
				元亀争乱	・信長侵攻前夜の近江の城郭の状況を説明	・織田信長朱印状（金森宛）
				安土城築城	・安土城築城の契機について説明	・近江国蒲生郡安土古城図 ・安土記
				安土城の調査整備	・安土城の調査整備について説明	・考古学的成果
				安土城・天主	・天主に関する資料について説明 ・天主の研究史を説明	・天主に関する資料
				安土城と城下町	・城下町の様子について説明 ・宣教師との様子について説明	・安土山下町中掟書（近江八幡市蔵） ・安土問答（浄厳院蔵） ・江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図 ・考古学的成果
		安土城の終焉を位置づけ	エピローグ	本能寺の変から豊臣近江へ	・安土城の最後を説明	・絵本太閤記 ・明智光秀像 ・豊臣秀吉像 ・八幡山下町中掟書

3-3. 平面計画・空間イメージ

図表 30：全体平面図



図表 31：常設展示室ゾーニング　※修正中



1. 第 1 常設展示室

- 展示室全体を没入感のあるガイダンスシアターとするなど、「安土城・信長・戦国」をテーマに安土城や信長の世界を総合的に伝える、ダイナミックな映像空間を目指します。
- 展示室は、安土城天主の八角形をイメージさせるスロープのついた立体的な形状とするなど、まるで安土城天主に登城していくかのような感覚を味わえるよう検討します。さらに、スロープを登り切ったところに観覧スペースを設ける他、登る途中の壁面にも、天主から臨む琵琶湖や城下町の風景を表現するなど、シアターへの期待感を高めるしかけについても検討します。
- プロジェクションマッピングなどを利用し、戦国時代の勢力図や城下町の様子を床面スクリーンに投影するなど、近江の地理的環境などをスケールの拡大・縮小を用いて自在に表現することを検討します。正面スクリーンに信長の姿や様々な資料を高精細に投影するなど、床面スクリーンと併せての一体的な映像展開についても検討します。
- これらの映像は、コア・ターゲットである子ども・ファミリーにも分かりやすいものを目指します。また、歴史にあまり興味がない方々にも、瞬時にその世界に入り込み体感できる臨場感や、夢やロマンを与えられるような映像とするよう検討します。
- 見られる映像メニューは、時期あるいは時間によって変更できるよう検討します。また、完全パッケージのコンテンツ以外にも、安土城の最新の調査研究成果の紹介や、スタッフによる様々なガイダンス・セミナーへの活用など、館側で準備したデータも投影できるように検討します。より多角的に活用できる自由度の高いシステムを構築するにより、何度来ても楽しめるシアター展示を目指します。

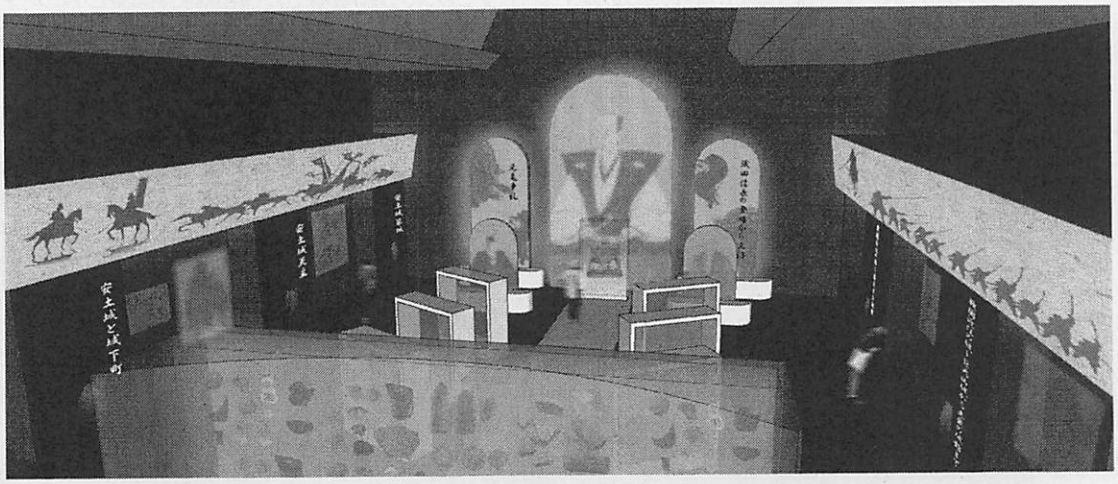
図表 32：第 1 常設展示室の空間イメージ

※本イメージ図は、基本計画において展示構成を検討するための参考資料であり、最終的な内容については、実施設計において決定します。

2. 第 2 常設展示室

- 第 2 常設展示室では、映像では得られないものとして、実物資料を重視した「安土城・信長・戦国」に関する展示を行います。公開承認施設としてのレベルを維持し、貴重な実物資料や発掘資料等を公開できるよう、展示ケースを中心とした鑑賞空間を目指します。
- 映像で得たイメージ世界と歴史的価値とを結節させることにより、従来からのファン層である現在のメイン利用者（40～60 代の男性）や歴史ファンも満足できる内容なるよう検討します。
- 第 2 常設展示室は、常設展示としながらも、学芸員の研究成果や「安土城・信長・戦国」に関する最新情報に対応できるよう、展示パターンや資料点数等に応じてフレキシブルに空間構成を変更できる設えとなるよう検討します。
- このことにより、第 2 常設展示室は、状況に応じて展示室テーマを変更することも可能となります。特別展・企画展と一体性を持たせた展示など、展示企画の幅が広がり豊かな展示を実現できます。
- 部屋の構成に合わせて、効果的な、触る、持つ、着るなどの簡易な体験展示も行います。

図表 33：第 2 常設展示室の空間イメージ



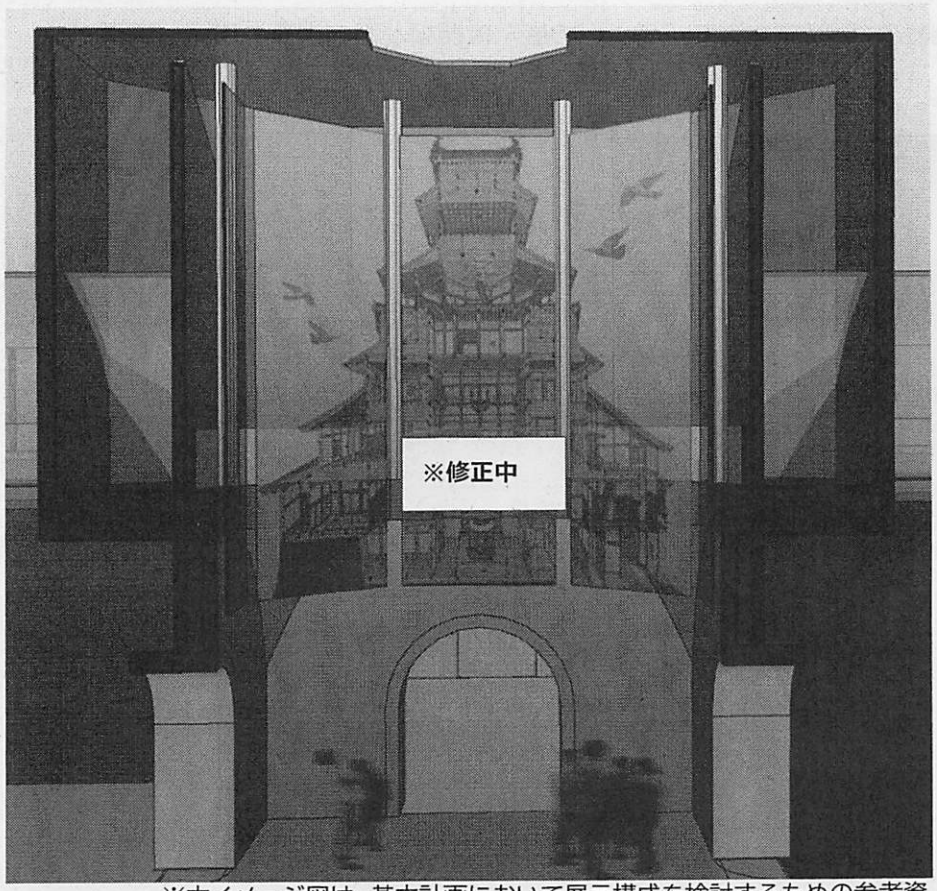
※本イメージ図は、基本計画において展示構成を検討するための参考資料であり、最終的な内容については、実施設計において決定します。

3-4. 望楼ホール

1. 望楼ホールの整備内容

- 第 1・2 常設展示室および企画展示室をつなぐ望楼ホールは、各展示室への入口および経由地として重要な位置を占めているため、各展示の顔として期待感を高めることをねらいとします。
- 建築としては、内藤昌氏復元天主のイメージである安土城天主の吹き抜けをイメージして造られ、外観望楼の下部にあたります。今回のリニューアルでは、展示室との一体性を持たせるために、その吹き抜けの高さや印象的な形状を活かしたイメージ展示を行うことを検討します。
- 望楼ホールの壁面には、安土城天主の立面・断面を模したバナーグラフィックを、床面には天主の礎石位置を示すグラフィックを展開し、立面と平面の両情報で安土城天主のスケールを体感できるよう検討します。なお、天主イメージについては、今後複数の研究成果を勘案しながら検討することとします。

図表 34：望楼ホールイメージ

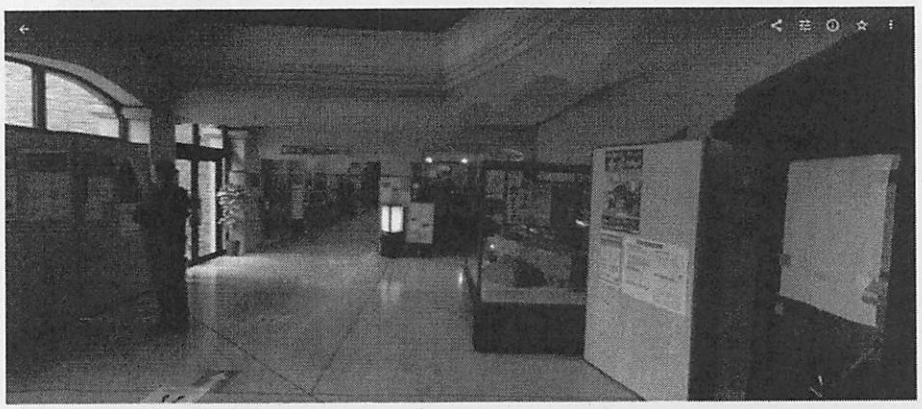


※本イメージ図は、基本計画において展示構成を検討するための参考資料であり、最終的な内容については、実施設計において決定します。

3-5. エントランスホール

1. エントランスホールの整備内容

- エントランスホールは本来、館のガイダンスをメインとし、展示機能を持たないのが通例ですが、本館では従来から調査・研究成果の速報展示や本館や他館の多彩な情報展示を行っています。
- 本計画では、第１常設展示室で行っている展示（大中の湖南遺跡・安土瓢箪山古墳のガイダンス）がなくなってしまうこと、従来から近江風土記のガイダンス機能（現状ではエントランスホールに周辺模型があるのみ）が図られていないことを考慮して、エントランスホールに近江風土記の丘関連のガイダンス機能を集約し強化することを検討します。
- エントランスホールでは、これらに加えて近江風土記の丘だけでなく、近接する水郷や八幡地区、さらには本県の観光施設・スポットなどへの回遊にもつながるよう、積極的な情報発信を行うことを検討します。
- 情報発信については、モニターやタッチパネルの他、発信したい内容によって情報や資料を更新できるモバイル型の展示機器などでの展開も検討します。



現状のエントランスホール

3-6. 工事工程イメージ

1. 想定される工事工程

- 今回のリニューアルでは全館閉館期間を設けず、部分開館をしながら、2期に分けた工事工程を想定しています。なお、望楼ホールやエントランスホール、企画展示室との整合等については、工事時期含め設計時に検討します。

図表 35：工事工程イメージ

工期	展示テーマ・内容			備考
	第1常設展示室	第2常設展示室	企画展示室	
現状	【弥生・古墳】 ・大中の湖南遺跡 ・瓢箪山古墳など	【中世・戦国】 ・観音寺城跡 ・安土城跡など	・常設展示に関連するテーマ	
第1常設展示室閉鎖				
1期工事中	工事	【中世・戦国】 ・観音寺城跡 ・安土城跡など	・安土城・信長・戦国に関連するテーマ ・考古全般	・旧第1常設展示室の内容をエントランスホールで公開することも検討
第1常設展示室リニューアルオープン・第2常設展示室閉鎖				
2期工事中	【ガイダンス展示】 ・安土城・信長・戦国のガイダンス	工事	・安土城・信長・戦国に関連するテーマ ・考古全般	・実物資料の展示は企画展示室を活用
第2常設展示室リニューアルオープン				
全面開館	【ガイダンス展示】 ・安土城・信長・戦国のガイダンス	【詳細展示】 ・安土城・信長・戦国の詳細	・安土城・信長・戦国に関連するテーマ ・考古全般	・展示規模・内容に応じて、企画展の一部を第2常設展示室で展開

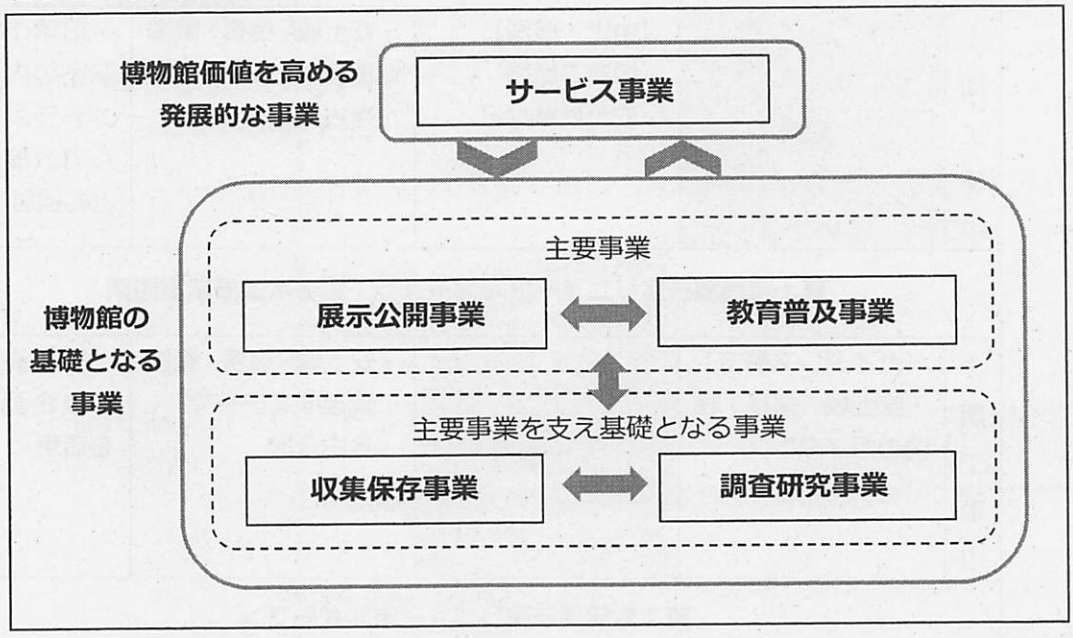
第４章　事業・運営計画

4-1. 事業運営における現状と課題

1. 事業活動の考え方

- 本館では平成 18 年度から指定管理者制度を導入しており、現在の指定管理者である公益財団法人滋賀県文化財保護協会が、次期指定管理者として令和 8 年 3 月 31 日まで、契約に基づいて事業の運営を行うことを前提とします。
- 本館は開館以来、1-2 で示している 3 つの活動「展示事業」「資料調査事業」「教育普及事業」を基本的な柱として事業の運営を行ってきました。本章では、これらを踏まえ展示リニューアルにあたって今後検討していかなければならない事業運営の在り方について、その課題と取り組み方針について記載します。

図表 36：事業活動体系



- この指定管理の期間は、第 1 常設展示室のリニューアル期間にあたり、第 2 常設展示室のリニューアルに向け本館の展示コンセプトが大幅に変革していく時期となります。そのため、これらを念頭に置いて館の事業運営を計画・推進する必要があり、テーマを特化した新しい博物館として生まれ変わるための準備期間ともなる大切な期間として位置づけます。

2. 事業運営上の課題

- 現状の事業運営上の課題は、1-5 の課題でも示したように、特に展示公開や教育普及、サービスの面での利用者ニーズとのかい離が生じており、入館者数に伸び悩みが見られます。
- 基礎的な部分としては、収集保存や調査研究において、指定管理料や事業収入の減少等により資料購入費や研究予算が不足しているのが現状です。
- 組織としては、指定期間の 5 年間に合わせた人員計画となるため、中長期的な人材育成に取り組めておらず、慢性的な人員不足や専門性を高める教育機会の減少、職員の高齢化などが生じており、指定管理者制度を生かした活性化が図られていません。また、展示解説等を行う運営ボランティアをはじめとした人材の育成や地域との連携も十分に行えていません。

4-2. 課題解決へ向けた方策

1. 事業の実施方針

- 先述した課題は、一朝一夕で解消することは難しく、また展示リニューアルのみで解消できる問題ではありません。中長期的な博物館経営のマネジメントの視点で検討し、取り組んでいくべき課題も見られます。
- したがって、以下の事項を、展示リニューアル後の事業運営の実施方針とします。

(1) ターゲットに即した事業運営の実施
(2) 集客や満足度を高めるサービス事業の強化
(3) 近江風土記の丘を中心とする遺跡のガイダンス強化、および関連する事業の展開
(4) 博物館のコンセプトに見合う基礎事業（調査研究・収集保存）の継続・強化と組織・人員体制の見直しの検討

(1) ターゲットに即した事業運営の実施

- ここにしかない、ここでしかできない安土城・信長・戦国をテーマとした博物館として再生します。そのためには、これからの時代を担う子どもとそのファミリーをコア・ターゲットとし、子ども・ファミリーに本館のファンになってもらえるような常設展示の活用を図ります。
- また、歴史ファンや専門家に加え、歴史になじみのない人たちにも親しみやすく、分かりやすい展示を目指して、展示手法の研究・開発を行います。子ども・ファミリー、若年層の集客を狙った特別展・企画展の開催や、中庭や屋外、館外を「体験活用ゾーン」として、体験プログラムの充実などを図ります。
- 本館に併設されている埋蔵文化財部門を他館にはない強みと捉え、これまでも行ってきた回廊展示、こども考古学教室やバックヤードツアー等をさらに充実させるとともに、博物館の一日仕事体験や調査研究活動の共同実施など、子どもたちの興味・関心を誘う新たな教育普及事業を今後検討し、実施していきます。
- 一方で、現在のメイン利用者（40～60 代の男性）に対しては、博物館講座（オンライン・オフライン問わず）の実施や研究成果等の最新情報を積極的に取り込むなどし、本館の継続利用を促します。

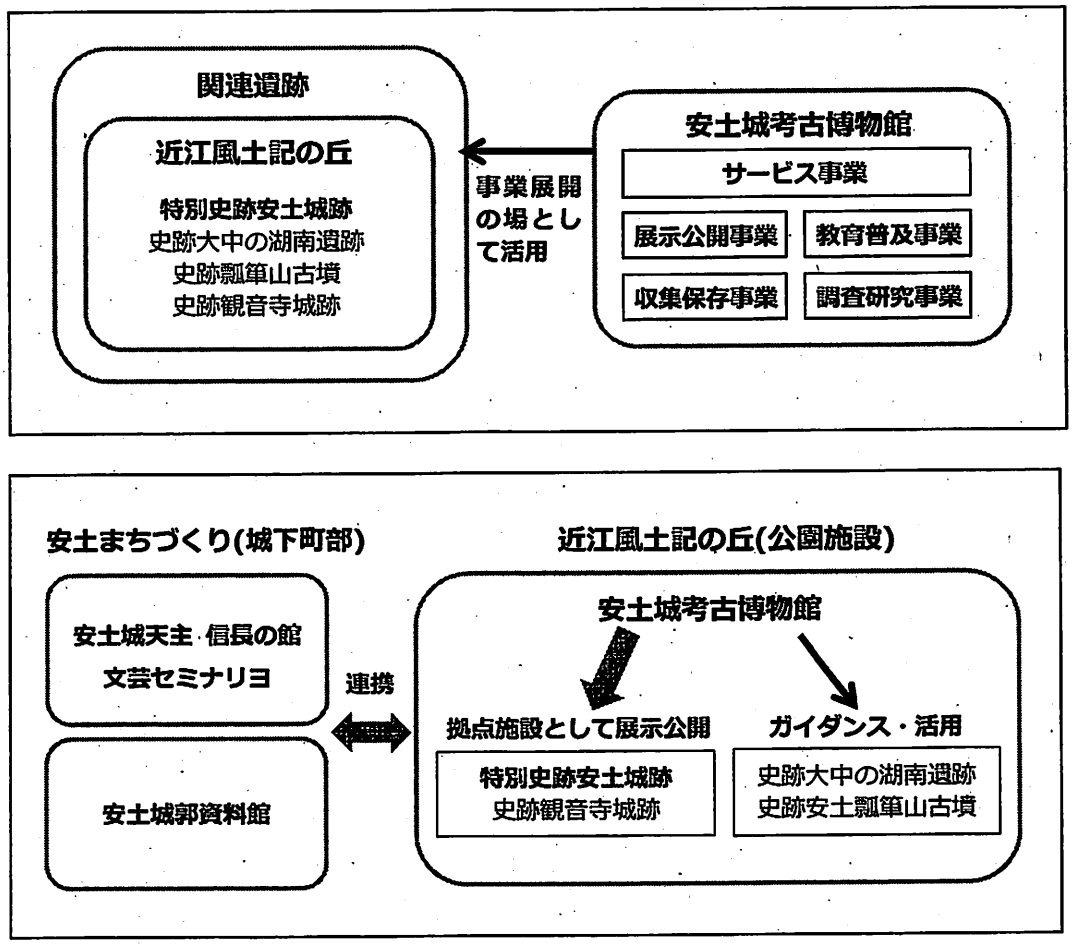
(2) 集客や満足度を高めるサービス事業の強化

- 本館の利用促進を図るため、周辺施設等との連携や博物館特別メニューの展開、県内博物館・史跡等とのスタンプラリーの実施、SNS や YouTube チャンネル等を活用した情報発信など、集客のための広報活動を積極的に行います。
- 安土城跡や安土駅から本館までの誘導サインや、近江風土記の丘内の回遊性を高めるための案内板の規格統一など、視認性に優れた分かりやすいサインについても今後検討していきます。また、ガイドマップや情報端末等、利用者が使用する情報ツールの制作については、随時検討していきます。
- 乳幼児連れの利用者に対する授乳スペースの設置をはじめ、外国人利用者に向けた多言語表記や情報端末等による解説サポートなど、より充実したユニバーサルデザインへの対応を検討します。
- 資料情報や映像、文献、研究成果等を学芸員だけでなく、県民や地域の子どもたち、研究者等がオンライン上で見られるような双方向の情報管理システムの整備を中長期的に検討します。将来的には琵琶湖文化館、埋蔵文化財センターをはじめとする各市町の施設等との連携も視野に、汎用性の高いシステムの導入を検討します。

(3) 近江風土記の丘を中心とする遺跡のガイダンス強化、および関連する事業の展開

- 本館が近江風土記の丘の一角をなすという立地特性を活かすために、新たにエントランスホールに整備する「近江風土記の丘ガイダンスゾーン」を活用し、地域文化財の情報発信に積極的に取り組んでいきます。
- 特別史跡安土城跡や史跡観音寺城跡は、リニューアルにおける展示コンセプトの核であることから、情報発信拠点としての使命を果たすような事業展開を目指します。特に安土城跡とは、最新の情報を共有するなど一体的な活用が図れるよう、(2) で示したようなガイドマップ等の制作やツアー、イベントの共同開催を積極的に行います。また、運営ボランティアについても、現在活動している安土町観光ボランティアガイド協会等と連携を取りながら、制度設計や運用のあり方の検討を行います。
- 展示内容や研究成果については、観光客や無関心層へもアプローチするため、県内の公共施設や観光施設等での公開も目指します。

図表 37：事業活動の展開イメージ



(4) 博物館のコンセプトに見合う基礎事業（調査研究・収集保存）の継続・強化と組織・人員体制の見直しの検討

- 様々な事業の基盤となる安土城・信長・戦国関係の調査研究や、関連資料の収集保存については、常設展示のリニューアルに伴い、その重要性はさらに高まると考えられることから、これまでの実績を踏まえ、さらに充実させていく必要があります。また、館のコンセプトも開館当時の位置づけから状況に応じた変革を行う可能性があるため、今後の運営にあたっては柔軟性のある組織・人員体制を意識していく必要があります。
- そのためには、利用者ニーズを的確にとらえ、対応し、資料の扱いを含め、展示テーマや研究テーマに即した専門性の高い人員（学芸員・技術者）の育成、計画的配置を中長期的に進めていくことが必要です。
- 学校団体の受入と併せて教職員向けの研修プログラムの開発を行うなど、博学連携活動を強化するとともに、利用者に対してより充実した展示体験を提供するため、(3)で示したような運営ボランティアの育成の取り組みも必要です。これらについても、専門職員の配置を含め検討していきます。
- 事業運営の充実には、組織・体制面での強化の他、補助金・助成金の活用など制度面での充実が重要であり、今後検討していく必要があります。

2. 運営目標

- 利用率の向上や収入の確保へ向け、現状では年間５万人の入館者の確保を目標としていますが、現状では達成できていません。リニューアル効果や安土城跡・信長の館との相乗効果を考慮すると、リニューアル後は「年間 10 万人」が目標となります。
- 県民サービスの充実に向け、アンケート調査による満足度 90%以上の達成を目指します。
- アンケートは、従来のように特別展・企画展ごとに行うものだけではなく、常設展示やサービスの満足度を測るものとして日常的に行うもの、リニューアル後の展示内容に関する満足度を測るものなどを実施します。
- 外国語のアンケートを準備し入館者における外国人割合やニーズを把握するなど、インバウンドに対する取組も今後必要であり、強化します。

第５章　事業推進計画

5-1. 建築設備改修の基本方針

1. 調査における課題と改善方針

- 本計画は、常設展示室のリニューアルを目途としています。しかし、常設展示室と企画展示室は一体の設備構成・仕様となっており、また、公開承認施設の機能保持の必要性から、本館の展示室や収蔵庫、設備系バックヤード等についても調査を実施し、文化庁の指導を受けました。全体的な現状と課題および改善方針については以下のとおりです。

（1）第１・第２常設展示室

①電気設備関連

【現状と課題】

- 照明器具について、現在、白熱灯・蛍光灯・放電灯が使用されており、省エネ化が遅れています。
- 調光制御盤（分電盤）が、上記照明器具の仕様に適合した旧型のものとなっており、老朽化が進んでいます。
- 調光制御盤（分電盤）に切り替えスイッチがあり、管理運用における操作性に難があります。

【改善方針】

- 展示室内の照明器具をLED化し、展示室の調光制御盤（分電盤）をLED照明に適した仕様に更新（既存撤去し新規製作）することが必要です。
- LED化にあたっては、ランニングコストは低下しますが、ハロゲンの器具と同等の演出効果を得ようとすると、一般的には灯数を増やす必要があります（10°以下の狭角の配光の光源では、明るさに関してハロゲンの方が優位であり、天井高の高い展示室では、狭角の光源を使用することが想定）。したがって、イニシャルコストが増加することも念頭においた計画とする必要があります。
- 展示室の電源ON/OFFの管理運用の見直しが必要です。

②空調設備関連

【現状と課題】

- 現状では展示室と望楼ホールの空気の行き来が自由となっており、望楼ホールだけでなく、カフェ、その先のエントランスホール側からの空気が流入している可能性があります。これにより各展示室内の温度ムラや、汚染された空気の侵入が起こり、展示室の空気状態が乱されています。
- しかしながら、現状の吹出口と、吸込口の位置や風量（計測値未入手）では、展示室内の温度ムラをなくすことは難しい現状にあります。

【改善方針】

- 吹出口と、吸込口の位置を変更（たとえば、低い位置でも吹出口を設置したり、吸込口は現状よりも分散設置をしたりするなど）により、現状より上下温度差を改善する必要があります。
- 望楼ホール側からの空気の流れが起こらないよう、エアーバランスとして、展示室はホールに対して常にプラス圧になるようにするコントロールが必要です。
- 防火扉との取り合いの検討、防災機器等の移設、法規的な検証を行ったうえで、展示室と望楼ホールの間に自動扉等を設け、物理的に空気の流入を遮断する必要があります。

③展示ケース等

【現状と課題】

- 展示ケース、演示具、壁紙、床材等が開館以来のものであり、経年変化(酸焼けした仕上げ材等)・劣化が著しい状態です。
- 展示ケースに至っては、近年、有機酸が発生するという問題が生じています。
- 現在、有機酸除去のため活性炭系吸着シート（イオケミシート）にて対策が実施されていますが、吸着シートで問題が解消されるには今後とも相当な時間と費用が必要になると想定されるため、有機酸を発生させている根源の除去、改善を実施することが有効で必須と考えられます。

【改善方針】

- 経年劣化している展示ケース、演示具、壁紙、床材等を一新するとともに、その後の管理運用を明確にし実施することが必要です。

今回の展示リニューアルは、基本的に常設展示に関係する部分となっていますが、公開承認施設として、その他建築関連の現状と課題、改善策についても今後検討していく必要性があるため、以下に記載しておくこととします。

（2）企画展示室

①電気設備関連

【現状と課題】

- 基本的に常設展示室と同様ですが、以下の点を加えます。
- 昇降バトンに設置された照明器具について、照射調整の際に使いづらさがあります。また、昇降バトンの巻上機の老朽化が進んでおり、落下の危険性が生じる可能性があります。

【改善方針】

- 基本的に常設展示室と同様ですが、以下の点を加えます。
- ウォールケース内の照明器具は、資料の劣化要因である近紫外線、近赤外線領域の波長成分がより少ない特性を持つ LED 素子を使用し、調光・調色（色温度）が調整できる LED 照明器具への更新が必要です。
- 昇降バトンに設置された照明器具については、昇降バトンと併せて撤去し、遠隔操作が可能な LED 照明器具への更新が必要です。

②空調設備関連

【現状と課題】

- 基本的に常設展示室と同様ですが、以下の点を加えます。
- 排煙方式がメッシュ天井裏からの自然排煙のため、温湿度環境を良好に維持するために天井を下げることは難しい状況です。
- 仮に天井を下げて温湿度環境を安定化させるためには、イニシャルコストやメンテナンス費用が嵩む機械排煙設備（非常用発電機も必要になる可能性あり）を設置するなどの措置、ハロン消火設備との関連性の検討が必要です。

【改善方針】

- 基本的に常設展示室と同様ですが、企画展示室は他館からの借り受け資料の展示もあり、公開承認施設の認定に関わる部屋となります。特に梅雨時から初秋にかけて、文化財に対して有害なガスの発生が多い現況を考慮しながら、通年を通して温湿度環境

を良好に保つことが必要と考えられるため、公開承認施設取り消しとならないような改善対策をとる必要があります。

③展示ケース等

【現状と課題】

- 基本的に常設展示室と同様ですが、同一ケースで様々な種類の展示物を展示しているため、ケース内環境が一定しません。

【改善方針】

- 基本的に常設展示室と同様ですが、今後も埋蔵文化財系の展示が実施されるのであれば、その期間においては、閉館時間や休館日に展示ケースの換気を実施するなどの対策が望ましいと考えます。

（3）その他建築関連

【現状と課題】

- 収蔵庫、トラックヤードから展示室への搬入ルートが狭く、クランクしているため資料サイズに制限があり、運搬時に破損の危険性があります。
- 特別収蔵庫に関して、新たな壁をつくり室内を２つに区分することで、文書系資料と考古系資料を分けて収蔵し、白カビ等の発生リスクを回避できるよう検討する必要があります。ただし、このためには空調設備のみならず、ハロン消火設備との調整も必要となります。
- 資料搬入ルートと一般来館者ルートが交錯しており、基本的な公開承認施設認定の前提条件に抵触しています。まずは運用面でその補完を検討することが重要です。
- 展示室天井裏で雨水の漏水が確認されています。これは屋根からの漏水だけではなく、降雨時に風で吹き上げられた雨水が、軒下から室内側に入り込んでいる可能性が考えられます。桁までが鉄筋コンクリート造、小屋組が鉄骨造になっており、経年による接合部の防水性能、気密性能の劣化など、屋根瓦の破損状況や軒下からの漏水について調査する必要があります。
- 壁の耐震性、断熱性、防水性などに比べて、小屋組の断熱性、防水性能が脆弱と思われ、野地板廻りの防水性能や断熱性能の劣化確認などの調査が必要です。
- 電気設備において、竣工以後に更新されていない設備（受変電設備等）があります。機器の更新を長期保全計画に基づいて実施する必要があります。
- 現在館内では無料 Wi-Fi サービスの提供が行われていますが、リニューアル後の展示物に対して必要となるネットワーク環境や、収蔵資料等を横断検索できる情報管理シ

ステムの整備についても検討を進めることが必要です。

- 展示室のみの改修で、室内環境の安定化を図ることには限界があるため、上記の建築改修や、空調設備の改修、展示室内の二重壁化、ネットワーク環境の整備といった全面改修についても中長期的に検討する必要があります。

5-2. 事業工程

- 現時点における展示リニューアル事業の工程について示します。

図表 38：事業スケジュール（想定）

事業大別	年次	事業内容【事業費】	行事
全体計画	令和 2 年	基本計画【8,800 千円】	
第 1 常設展示室リニューアル（エントランスホール・望楼ホール含む）	令和 3 年	※「幻の安土城」復元プロジェクトとの整合、シアター展示等の実地調査を実施	
	令和 4 年	実施設計	
	令和 5 年	工事施工（1 期）	
	令和 6 年	枯らし期間・開館準備	
	令和 7 年	オープン	大阪・関西万博 国民スポーツ大会 全国障害者スポーツ大会
	令和 8 年	―	安土城築城 450 年祭
総事業費		【未定】	

※第 2 常設展示室リニューアル（時期未定）

～実施設計→工事施工（2 期）→枯らし・開館準備→オープン